



デジタルビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

パスワードでログイン

目的：

デバイスからログアウトしている場合、メニューおよびその他機能进行操作する前に、デバイスにログインが必要です。

手順1 ドロップダウンリストで[ユーザー名]を選択します。

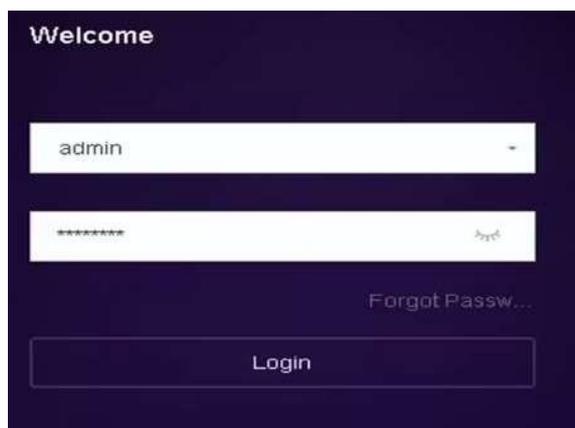


図 2-5 ログインインターフェイス

手順2 パスワードを入力します。

手順3 [OK]をクリックしてログインします。

NOTE

- 管理者パスワードを忘れた場合には、[パスワードを忘れた場合]をクリックして、パスワードをリセットしてください。
- ログインダイアログボックスで、間違ったパスワードを7回入力すると、現在のユーザーアカウントは60秒間ロックされます。

デフォルトユーザー名 : admin

デフォルトパスワード : alta9998

メインメニューに入る

ウィザードが完了したら、画面を右クリックしてメインメニューバーに入ることができます。メインメニューとサブメニューの説明については、次の図と表を参照してください。



図 2-12 メインメニューバー

表 2-1 アイコンの説明

アイコン	説明
	ライブビュー
	再生
	ファイル管理
	スマート解析
	カメラ管理
	ストレージ管理
	システム管理



システムメンテナンス :

システム操作

1. ログアウト

目的 :

ログアウト後は、モニターはライブビューモードに切り替えます。操作を実行する場合、ユーザー名とパスワードを入力して再びログインする必要があります。

手順1 メニューバーの  をクリックします。

手順2 [ログアウト]をクリックします。



NOTE

システムからログアウトした後は、画面上のメニュー操作は無効になります。システムをロック解除するには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

デバイスをシャットダウン

手順1 メニューバーの  をクリックします。

手順2 [シャットダウン]をクリックします。

手順3 [はい]をクリックします。



NOTE

システムのシャットダウン中には電源オフ操作を実施しないでください。

デバイスの再起動

シャットダウンメニューから、デバイスを再起動することもできます。

手順1 メニューバーの  をクリックします。

手順2 [再起動]をクリックしてデバイスを再起動します。

ライブビュー

ライブビューでは、リアルタイムで各カメラから取得した映像を見ることができます。

ライブビューの開始

メインメニューバーの  をクリックして、ライブビューを開きます。

- ウィンドウを選択して、リストからカメラをダブルクリックすると、選択したウィンドウでカメラからビデオを再生できます。
- 再生ウィンドウ下部のツールバーを使用して、キャプチャー、簡易再生、オーディオのオン/オフ、デジタルズーム、ライブビュー画面構成、情報の表示、録画の開始/停止などができます。

デジタルズーム

デジタルズームはライブ映像を拡大します。さまざまな比率（1～16倍）に映像を拡大できます。

手順1 ライブビューモードで、ツールバーから  をクリックして、デジタルズームインターフェイスを開きます。

手順2 スライダーを動かす、またはマウスホイールをスクロールして、映像をさまざまな比率（1～16倍）で拡大/縮小することができます。



図 5-1 デジタルズーム

ライブビュー画面構成

手順1 ライブビューモードで  をクリックして、全画面モードでデジタルズーム操作インターフェイスを開きます。

手順2 ライブビュー画面構成をリアルタイム、バランス、滑らかから選択します。

ターゲット検出

ライブビューモードでは、ターゲット検出機能を使って5秒前から10秒後までの人の動作、顔、車両、人体を検出します。

手順1 ライブビューモードで、[ターゲット検出]タブをクリックしてターゲット検出インターフェイスに入ります。

手順2 アイコンのチェックボックスにチェックを入れて、動体検知 ()、車両検知 ()、顔検知 ()、人体検知 () から検出のタイプを選択します。

手順3 履歴解析 () やリアルタイム解析 () を選択すると、結果を取得できます。



図 5-2 ターゲット検出

結果：

検出結果のスマート解析がリストに表示されます。オプションで、リスト内の結果をクリックして関連動画を再生します。

ライブビューの設定

ライブビュー設定は、ニーズに応じてカスタマイズできます。出力インターフェイス、画面に表示される切り替え間隔、音声のミュートまたはオン、各チャンネルの画面番号などを設定できます。

手順1 [システム]>[ライブビュー]>[全般]に進みます。

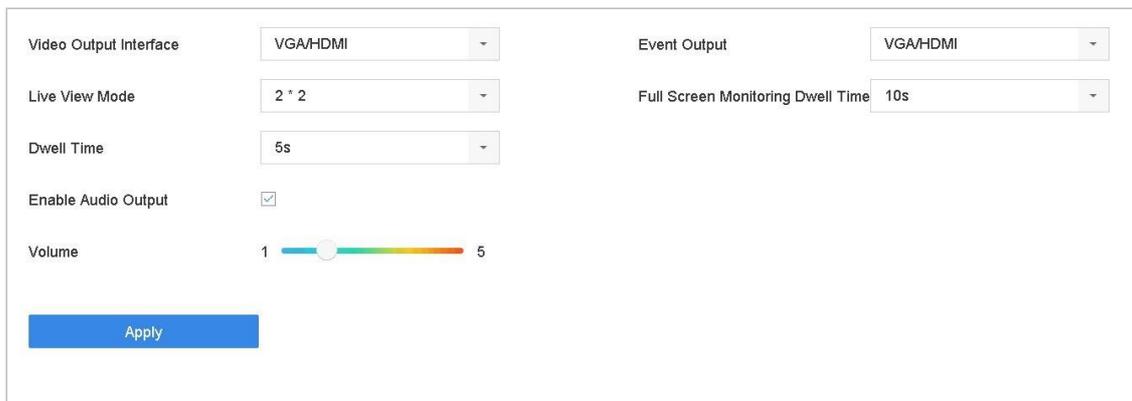


図 5-3 ライブビュー：全般

手順2 ビデオ出力インターフェイス：

- 映像出力インターフェイス：設定するビデオ出力を選択します。
- ライブビューモード：ライブビューの表示モード（2*2、1*5 など）を選択します。
- 切り替え間隔：ライブビューで自動切り替えが有効な場合、カメラを切り替える間隔を秒単位で指定します。
- 音声出力の有効化：選択したビデオ出力の音声出力を有効/無効にします。
- 音量：選択した出力インターフェイスのライブビュー、再生、双方向音声の音量を調整します。
- イベント出力：イベントビデオを表示する出力を選択します。
- 全画面監視の切り替え間隔：アラームイベント画面を表示する時間を秒数で設定します。

手順3 [OK]をクリックして、設定を保存します。

ライブビューレイアウトの設定

手順1 [システム]>[ライブビュー]>[ビュー]の順にクリックします。

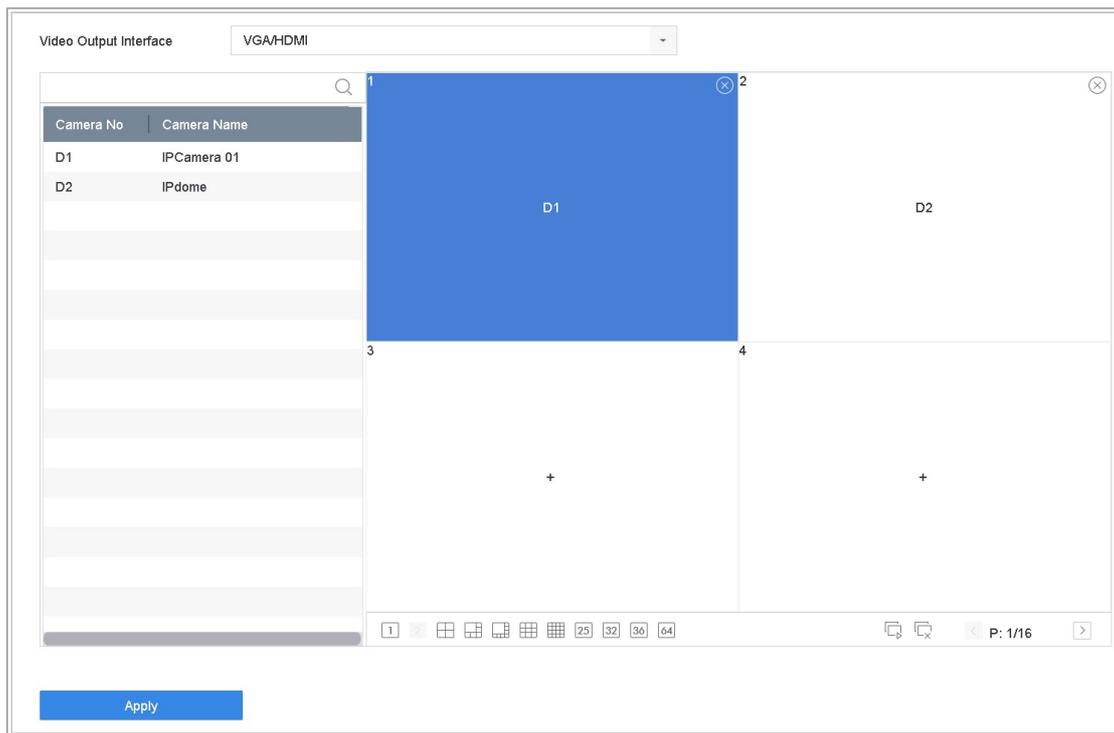


図 5-4 ライブビュー

手順 2 ビデオ出力インターフェイス (HDMI/VGA、チャンネルゼロなど) を選択します。

手順 3 ツールバーからウィンドウ分割モードを選択します。

手順 4 分割ウィンドウを選択して、リストからカメラをダブルクリックして、カメラをウィンドウに設定します。

テキストフィールドに番号を入力すると、リストからカメラをすばやく検索できます。

NOTE

カメラをライブビューインターフェイスの希望のウィンドウにクリック&ドラッグして、カメラの順番を設定します。

関連操作：

-  ボタンをクリックして、すべてのチャンネルのライブビューを開始します。

-  をクリックすると、すべてのライブビューが停止します。 手順 5

[適用]をクリックして、設定を保存します。

カメラの自動切り替え設定

カメラの自動切り替えをさまざまな表示モードで設定できます。

手順1 [システム]>[ライブビュー]>[全般]に進みます。

手順2 ビデオ出力インターフェイス、ライブビューモード、切り替え間隔を設定します。

- ビデオ出力インターフェイス：ビデオ出力インターフェイスを選択します。
- ライブビューモード：ライブビューの表示モード（2*2、1*5 など）を選択します。
- 切り替え間隔：自動切り替えが有効な場合、カメラを切り替える間隔を秒単位で指定します。範囲は5秒～300秒です。

手順3 [ビュー]でビューのレイアウトを設定します。

手順4 [OK]をクリックして、設定を保存します。

チャンネルゼロエンコーディングの設定

目的：

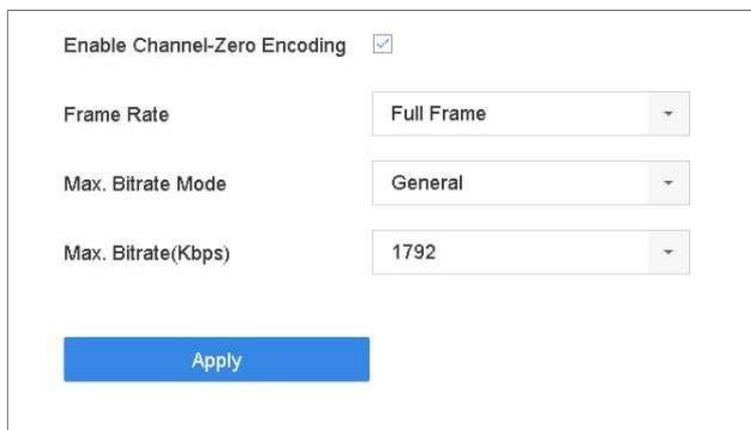
WebブラウザやCMS（クライアント管理システム）ソフトウェアからリアルタイムで多チャンネルの遠隔映像を取得する必要がある場合には、映像品質に影響を与えずに帯域幅要件を減らすために、チャンネルゼロエンコーディングを有効にできます。

手順1 [システム]>[ライブビュー]>[全般]に進みます。

手順2 チャンネルゼロへのビデオ出力インターフェイスを選択します。

手順3 [システム]>[ライブビュー]>[チャンネルゼロ]の順にクリックします。

手順4 チェックボックスを選択して、チャンネルゼロを有効にします。



Enable Channel-Zero Encoding	<input checked="" type="checkbox"/>
Frame Rate	Full Frame
Max. Bitrate Mode	General
Max. Bitrate(Kbps)	1792
<input type="button" value="Apply"/>	

図 5-5 ライブビュー：チャンネルゼロエンコーディング

手順5 フレームレート、最大ビットレート方式、最大ビットレートを設定します。より高いフレームレートとビットレート設定では、帯域幅要件が高くなります。

手順6 [適用]をクリックします。

結果：

CMS または Web ブラウザーを使用して、1 画面にすべてのチャンネルを表示できます。

補助モニターの使用

補助モニターでは、ライブビューの一部の機能もお使いいただけます。利用できる機能は次の通りです。

- 単画面：選択したカメラの全画面表示に切り替えます。カメラはドロップダウンリストから選択します。
- 複数画面：複数の表示レイアウト間で切り替えます。レイアウトはドロップダウンリストから選択します。
- 次の画面：ライブビューで最大数以下のカメラが表示された場合、この機能をクリックすると、次の画面に切り替わります。
- 映像再生：再生モードに切り替えます。
- PTZ 制御：PTZ 制御モードに切り替えます。
- メインモニター：メイン操作モードに切り替えます。

NOTE

主出力モニターのライブビューモードでは、AUX 出力モードがオンにするとメニュー操作ができません。

カメラの設定

OSD 設定

目的：

日付/時刻、カメラ名など、カメラの OSD（オンスクリーンディスプレイ）設定が可能です。

手順 1 メインメニューバー上の  をクリックします。

手順 2 [表示] をクリックします。

手順 3 ドロップダウンリストからカメラを選択します。

手順 4 [カメラ名] テキストフィールドの名前を編集します。

手順 5 映像に情報を表示するには、[カメラ名表示]、[日付表示]、[曜日表示] を選択します。

手順 6 日付形式、時間形式、表示モードを設定します。

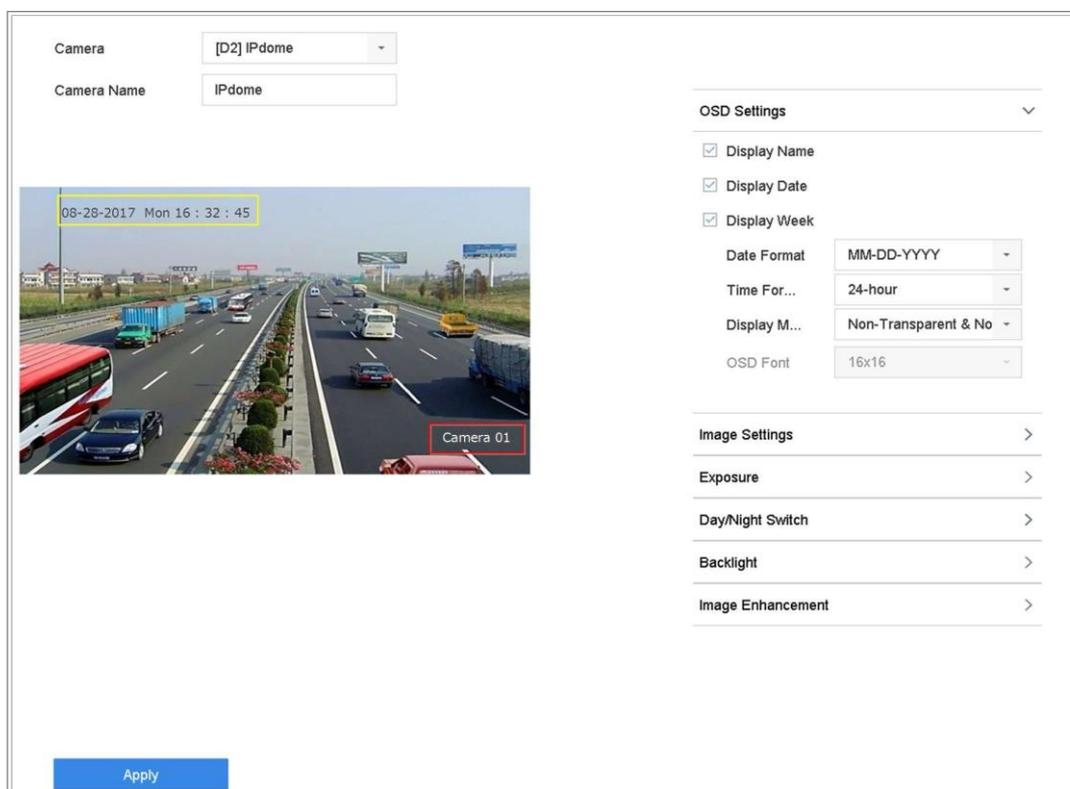


図 4-1 OSD 設定インターフェイス

手順7 プレビューウィンドウのテキスト枠をマウスでクリック&ドラッグすると、OSD の位置を調整できます。

手順8 [適用]ボタンをクリックして、設定を適用します。

プライバシーマスクの設定

目的：

プライバシーマスクは、マスク領域を表示または録画した映像の一部を隠すことで、個人のプライバシーを保護するために使用できます。

手順1 メインメニューバー上の  をクリックします。

手順2 [プライバシーマスク]をクリックします。

手順3 プライバシーマスクを設定するカメラを選択します。

手順4 この機能を有効にするには、[有効にする]を選択します。

手順5 マウスを使ってウィンドウにゾーンを描きます。ゾーンは異なる枠の色でマークされます。

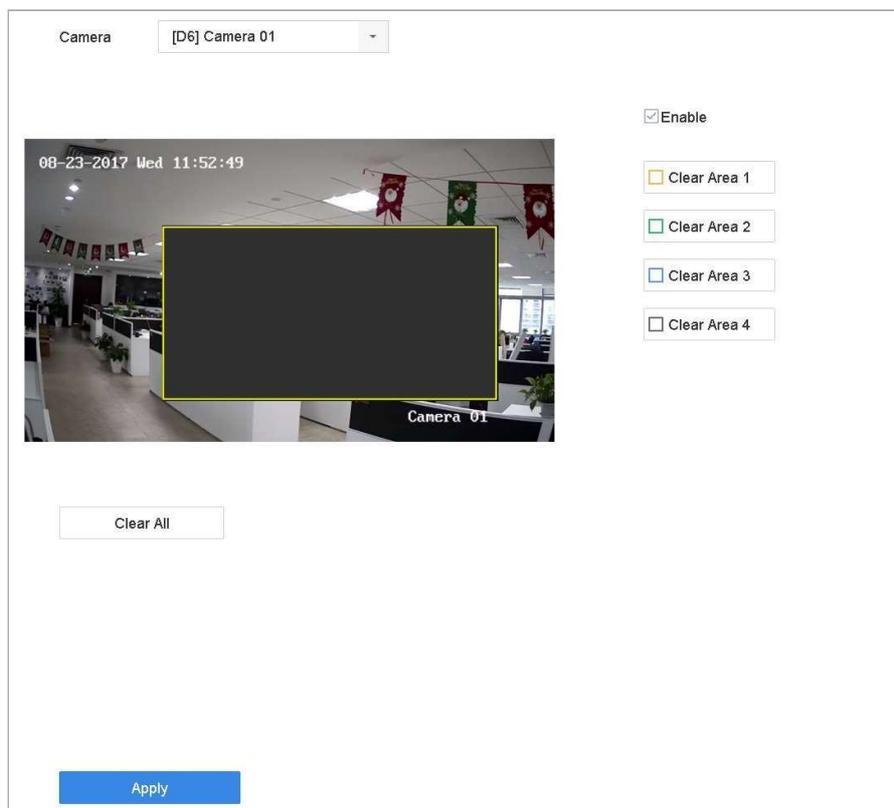


図 4-2 プライバシーマスク設定インターフェイス



NOTE

最大4つのプライバシーマスクゾーンを設定でき、各エリアのサイズを調整できます。

関連操作：

ウィンドウに設定されたプライバシーマスク領域は、ウィンドウの右側にある対応する[領域 1-4 の削除]アイコンをクリックするか、または[すべてを削除]をクリックしてすべてのゾーンを消去することで消去できます。

手順6 [適用]をクリックして、設定を保存します。

3. ビデオパラメータの設定

目的：

ライブビューと録画エフェクトの明るさ、コントラスト、彩度など、映像パラメータをカスタマイズできます。

手順1 メインメニューバー上のをクリックします。

手順2 [表示]をクリックします。

手順3 ドロップダウンリストからカメラを選択します。

手順4 スライダーを調整する、または上下の矢印をクリックして、明るさ、コントラスト、彩度の値を設定します。

手順5 [適用]をクリックして、設定を保存します。

4. デイ/ナイト切り替えの設定

カメラは周囲の明るさに応じて、「昼間」、「夜間」、「自動切り替え」が設定できます。

手順1 メインメニューバー上のをクリックします。

手順2 [表示]をクリックします。

手順3 ドロップダウンリストからカメラを選択します。

手順4 [昼/夜間切り替え]は[昼間]、[夜間]、[自動]または[自動切り替え]を選択します。

自動：カメラは明るさに応じて自動的に、昼間モードと夜間モードを切り替えます。

感度範囲は0~7です。感度が高いほど、頻繁にモードが切り替わります。

切り替え時間はデイ/ナイト切り替えの時間間隔のことです。5 秒～120 秒まで設定できます。

自動切り替え：設定した開始時間と終了時間に応じて、カメラは昼間モードと夜間モードを切り替えます。

手順 5 [適用]をクリックして、設定を保存します。

その他のカメラパラメータの設定

接続されたカメラは、露出モード、バックライト、画像強調などのカメラパラメータを設定できます。

手順 1 メインメニューバー上の  をクリックします。

手順 2 [表示]をクリックします。

手順 3 ドロップダウンリストからカメラを選択します。

手順 4 カメラパラメータを設定します。

- 露光：カメラの露光時間（1/10000～1 秒）を設定します。露光値を大きくするほど、映像は明るくなります。
- バックライト：カメラのワイドダイナミックレンジ（0～100）を設定します。周囲の明るさとオブジェクトの明るさの差が大きい場合は、WDR 値を設定する必要があります。
- 画像強調：最適化された画像コントラスト強調用。

手順 5 [適用]をクリックして、設定を保存します。

ストレージ

1. ストレージデバイス管理

1. HDD の設置

デバイスを起動する前に、デバイスに HDD を設置および接続します。インストール手順については、クイックスタートガイドを参照してください。

2. ネットワークディスクの追加

割り当てられた NAS または IP SAN のディスクをデバイスに追加し、ネットワーク HDD として使用することができます。最大 8 台のネットワークディスクが追加できます。

NAS の追加

手順 1 [ストレージ]>[ストレージデバイス]に進みます。

手順 2 [追加]をクリックして、「カスタム追加」インターフェイスを開きます。

手順 3 [NetHDD]のタイプを選択します。

手順 4 [NAS]のタイプを選択します。

手順 5 テキストフィールドに **NetHDD IP** を入力します。

手順 6 [検索]をクリックして、利用可能な NAS ディスクを検索します。

Custom Add

NetHDD NetHDD 1

Type NAS

NetHDD IP 120 . 36 . 2 . 39

NetHDD Directory /nas/device1/11| Search

OK Cancel

図 7-1 NAS ディスクの追加

手順7 リストから NAS ディスクを追加するか、NetHDD ディレクトリのテキストフィールドにディレクトリを手動で入力します。

手順8 [OK]をクリックして、NAS ディスクの追加を完了します。

結果：

NAS ディスクの追加に成功したら、HDD 情報メニューに戻ります。追加された NetHDD はリストに表示されます。

IP SAN の追加

手順1 [ストレージ]>[ストレージデバイス]に進みます。

手順2 [追加]をクリックして、「カスタム追加」インターフェイスを開きます。

手順3 ドロップダウンリストから **NetHDD** を選択します。

手順4 [**IP SAN**]のタイプを選択します。

手順5 テキストフィールドに **NetHDD IP** を入力します。

手順6 [検索]をクリックして、利用可能な IP SAN ディスクを検索します。

手順7 リストから、IP SAN ディスクを選択します。

手順8 [OK]をクリックして、IP SAN ディスクの追加を完了します。



NOTE

最大 1 台の IP SAN ディスクが追加できます。

Custom Add	
NetHDD	NetHDD 1
Type	IP SAN
NetHDD IP	120 . 36 . 2 . 39
NetHDD Directory	iqn.2008-06.storos.1-2

Search

OK Cancel

図 7-2 IP SAN ディスクの追加

結果：

IP SAN ディスクの追加に成功したら、HDD 情報メニューに戻ります。追加された NetHDD はリストに表示されます。



NOTE

インストールした HDD または NetHDD が初期化されていない場合、それを選択して[Init]をクリックして初期化してください。

7.1.3 データストレージ用の eSATA の設定

デバイスに接続された外部 eSATA デバイスがある場合には、データストレージ用に eSATA を構成し、デバイスで eSATA を管理できます。

手順 1 [ストレージ]> [詳細]をクリックします。

手順 2 [用途]のドロップダウンリストから、[エクスポート]または[録画/キャプチャー]の用途種類を選択します。

- エクスポート：バックアップに eSATA を使用します。
- 録画/キャプチャー：録画/キャプチャーに eSATA を使用します。操作方法については、以下の手順を参照してください。

eSATA	eSATA1
Usage	Record/Capture

図 7-3 eSATA モードの設定

手順 3 [録画/キャプチャー]の[用途]種類を選択した場合、ストレージ機器インターフェイスに入ります。

手順 4 選択した eSATA のプロパティを編集するか、必要に応じて初期化します。

2. ストレージモード

1. HDD グループの設定

目的：

複数の HDD をグループで管理できます。特定のチャンネルからのビデオは、HDD 設定によって特定の HDD グループに録画することができます。

手順 1 [ストレージ]>[ストレージデバイス]に進みます。

手順 2 HDD を選択して、グループを設定します。

+ Add		Init		Total Capacity 1863.03GB				Free Space 1702.00GB	
<input type="checkbox"/>	Label	Capacity	Status	Property	Type	Free Space	Group	Edit	Delete
<input checked="" type="checkbox"/>	5	931.52GB	Normal	RAW	Local	871.00GB	2		
<input checked="" type="checkbox"/>	7	931.52GB	Normal	RAW	Local	831.00GB	1		

図 7-4 ストレージデバイス

手順 3 をクリックして 、ローカル HDD 設定インターフェイスに入ります。

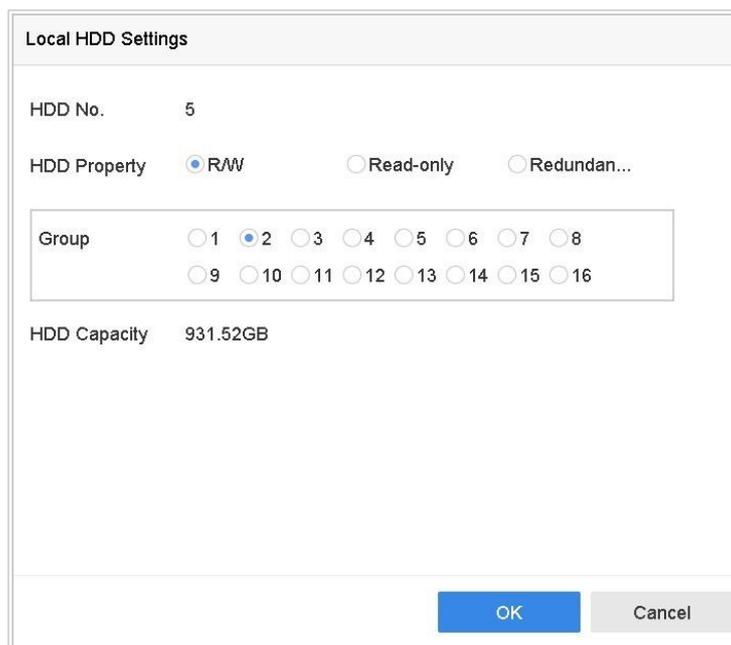


図 7-5 ローカル HDD の設定

手順 4 現在の HDD 用にグループ番号を選択します。

手順 5 **[OK]**をクリックします。

NOTE

HDD グループ番号が変更された場合には、HDD 用にカメラを再グループ化します。

手順 6 **[ストレージ]**>**[ストレージモード]**に進みます。

手順 7 **[グループ]**の**[モード]**を選択します。

手順 8 **[HDD グループ録画]**からグループ番号を選択します。

手順 9 HDD グループ上で録画またはキャプチャー対象の IP カメラを選択します。

The screenshot shows a configuration window for storage mode. At the top, there are two radio buttons: 'Quota' (unselected) and 'Group' (selected). Below this is a dropdown menu labeled 'Record on HDD Group' with the value '2'. The main area contains a grid of checkboxes for IP cameras, labeled from D1 to D56. The checkboxes for D1 through D12 are checked, while D13 through D56 are unchecked. At the bottom of the window is a blue 'Apply' button.

図 7-6 ストレージモード：HDD グループ

手順 10 [適用]をクリックします。

NOTE

デバイスを再起動して、新しいストレージモード設定を有効にします。

HDD クォータの設定

目的：

各カメラは、録画ファイルやキャプチャー画像を保存するために、クォータの割り当てを設定できます。

手順 1 [ストレージ]>[ストレージモード]の順にクリックします。

手順 2 [クォータ]の[モード]を選択します。

手順 3 クォータを設定するカメラを選択します。

手順 4 [最大録画容量 (GB)]と[最大画像容量 (GB)]のストレージ容量を入力します。

Mode Quota Group

Camera [D1] IPCamera 01

Used Record Capacity 18.00GB

Used Picture Capacity 2048.00MB

HDD Capacity (GB) 1863

Max. Record Capacity (GB) 1500

Max. Picture Capacity (GB) 50

⚠ Free Quota Space 313 GB

Copy to Apply

図 7-7 ストレージモード : HDD クォータ

手順5 (オプション) [コピー先]をクリックして、現在のカメラのクォータ設定を他のカメラにコピーできます。

手順6 [適用]をクリックして、設定を適用します。デバイスを再起動して、新しいストレージモード設定を有効にします。

NOTE

クォータ容量が0に設定されているときは、すべてのカメラは録画と映像キャプチャーにHDDの全容量を使用します。

3. 録画パラメータ

1. メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに録画されているデータに影響を与え、録画品質と画像サイズを直接決定するプライマリストリームです。

サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートの高品質ビデオを提供できます。

フレームレート（FPS - 1 秒あたりのフレーム数）：1 秒間にキャプチャーされるフレーム数。全体的な高画質を維持するため、ビデオストリームに動きがあるときは、より高いフレームレートが有利です。

解像度：画像の解像度は、デジタル画像が持つ詳細の尺度です。解像度が高いほど、詳細レベルが高くなります。解像度はピクセル列（幅）×ピクセル行（高さ）として指定できます。例：1024×768。

ビットレート：ビットレート（kbit/秒または Mbit/秒）はしばしば速度と呼ばれますが、実際には距離/時間単位ではなくビット/時間単位を定義します。

H.264+モードを有効化：H.264+モードは低いビットレートで高いビデオ品質を達成するのに役立ちます。これにより、必要な帯域幅と HDD ストレージ容量を効果的に削減できます。

NOTE

より高い解像度、フレームレート、ビットレート設定は、優れたビデオ品質を提供します。しかし、これはより多くのインターネット帯域幅を必要とし、またハードディスクドライブのストレージ容量を多く消費します。

2. サブストリーム

サブストリームはメインストリームと並行して実行される 2 番目のコーデックです。直接録画品質を損なうことなく、送信インターネット帯域幅を減らすことができます。

サブストリームは、しばしばスマートフォンアプリケーションでライブビデオを視聴する目的だけに使用されます。インターネット速度が制限されているユーザーは、この設定が最もお勧めです。

3. 画像

画像とは、連続またはイベント録画タイプでのライブ画像キャプチャーのことを指します。

画質：画質を低、中、高に設定します。高い画質ほど、より多くのストレージ容量が必要になります。

間隔：ライブ画像のキャプチャー間隔。

4. 詳細録画設定

手順 1 [ストレージ]から[録画スケジュール]に移動します。

手順 2 [スケジュール有効化]をクリックして、予約録画を有効にします。

手順 3 [詳細]をクリックして、録画パラメータを設定します。

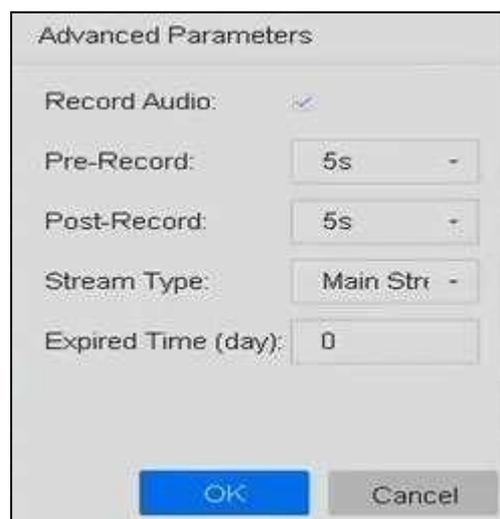


図 7-8 詳細録画設定

- 録音：チェックボックスを選択して、録音を有効または無効にします。
- プリ録画：スケジュールされた時間またはイベントの前に録画するように設定した時間。例えば、アラームにより 10:00 に録画が開始することになっていて事前録画時間を 5 分に設定していた場合、カメラは 9:59:55 から録画します。
- ポスト録画：スケジュールされた時間またはイベントの後に録画するように設定した時間。例えば、アラームにより 1100 に録画が終了することになっていて事後録画時間を 5 分に設定していた場合、カメラは 11:00:05 まで録画します。
- 有効期限：有効期限は、録画ファイルが HDD に保持される期間です。期限が来るとファイルは削除されます。有効期限を 0 に設定すると、ファイルは削除されません。ファイルの実際の保持期間は、HDD 容量に応じて決定してください。
- 冗長録画/キャプチャー：冗長録画/キャプチャーを有効にすると、録画とキャプチャー画像を冗長 HDD に保存します。の章冗長録画とキャプチャーの設定を参照してください。
- ストリームタイプ：メインストリームとサブストリームが録画で選択可能です。サブストリームを選択すると、同じストレージ容量で長時間録画することができます。iDS-7200HQHI-K/S と iDS-7200HUHI-K/S シリーズでは、デフォルト値はデュアルストリームで、この値は編集できません。

手順 4 [OK]をクリックして、設定を保存します。

録画スケジュールの設定

録画スケジュールを設定すると、カメラは設定されたスケジュールに従って録画を自動的に開始/停止します。

開始前

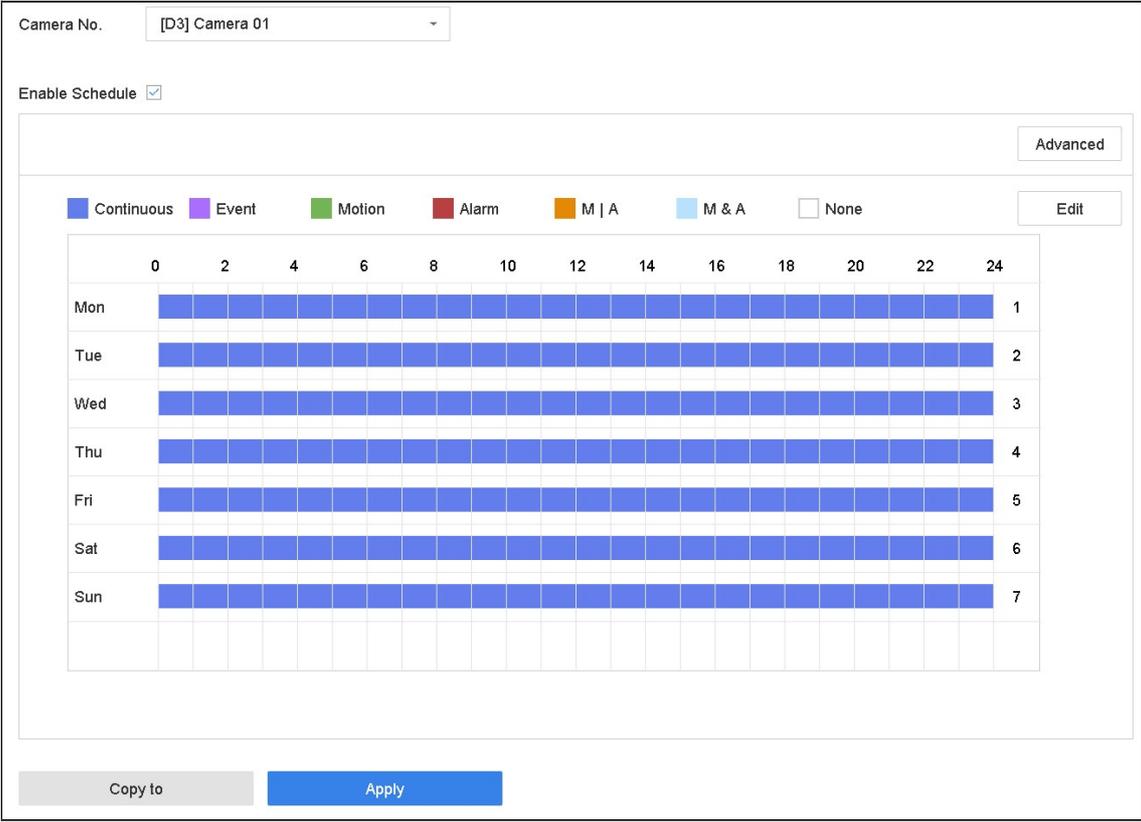
デジタルビデオレコーダークイックスタートガイド

動画ファイル、画像、ログファイルを保存する前に、機器にHDDをインストールしたか、またはネットワークディスクを追加したかを確認してください。

HDDの設置については、クイックスタートガイドを参照してください。

ネットワークHDD接続については、の章 7.1.2 ネットワークディスクの追加 を参照してください。

手順1 [ストレージ]> [録画スケジュール]に進みます。



Camera No. [D3] Camera 01

Enable Schedule

Advanced

Continuous Event Motion Alarm M | A M & A None Edit

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
Mon	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	1
Tue	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	2
Wed	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
Thu	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	4
Fri	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	5
Sat	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	6
Sun	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	7

Copy to Apply

図 7-9 録画スケジュール

手順2 カメラを選択します。

手順3 [スケジュールの有効化]を選択します。

手順4 [録画タイプ]を選択します。録画タイプは連続、動体検知、アラーム、動体またはアラーム、動体検知&アラーム、イベントです。

さまざまな録画タイプを設定できます。

連続：スケジュール録画。

イベント：すべてのイベントトリガーアラームによってトリガーされた録画。

動体：動体検知によってトリガーされた録画。

アラーム：アラームによってトリガーされた録画。

M/A : 動体検知またはアラームによってトリガーされた録画。

M&A : 動体検知およびアラームによってトリガーされた録画。

手順5 曜日を選択し、タイムバー上でマウスをクリック&ドラッグして録画スケジュールを設定します。

手順6 上記の手順を繰り返して、週の他の曜日に録画またはキャプチャーをスケジュールします。



工場出荷時のデフォルト設定では、終日連続録画がデバイスに設定されています。

手順7 [適用]をクリックして、設定を保存します。



動体検知、アラーム、動体またはアラーム、動体検知&アラーム、イベントトリガー録画とキャプチャーを有効化するには、動体検知設定、アラーム入力設定、その他のイベントも設定する必要があります。詳細は、第10章と0を参照してください。

5. 連続録画の設定

手順1 [カメラ]>[エンコードパラメータ]>[録画パラメータ]に進みます。

手順2 カメラのパラメータを設定します。

手順3 [ストレージ]>[録画スケジュール]に進みます。

手順4 録画タイプ[連続]を選択します。

手順5 タイムバー上でマウスをドラッグして、連続録画スケジュールを設定します。詳細は7.4 録画スケジュールの設定の章を参照してください。

6. 動体検知トリガー録画の設定

動体検知イベントによってトリガーされる録画を設定できます。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[動体検知]に進みます。

手順2 動体検知を設定し、動体イベントが発生したときに録画をトリガーするチャンネルを選択します。詳細は11.2 アラーム連携アクションの設定を参照してください。

手順3 [カメラ]>[エンコードパラメータ]>[録画パラメータ]に進みます。

手順4 カメラのイベントメインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。

手順5 [ストレージ]> [録画スケジュール]に進みます。

手順6 録画タイプ[動体検知]を選択します。

手順7 タイムバー上でマウスをドラッグして、動体検知録画スケジュールを設定します。詳細は7.4 録画スケジュールの設定の章を参照してください。

7. イベントトリガー録画の設定

動体検知、動体検知およびアラーム、動体検知、顔検知、車両検知、ラインクロス検知などでトリガーされる録画を設定できます。

手順1 [システム]> [イベント]に進みます。

手順2 イベント検知を設定し、イベントが発生したときに録画をトリガーするチャンネルを選択します。詳細は第11章 イベントとアラーム設定と第13章 VCA イベントアラームを参照してください。

手順3 [カメラ]> [エンコードパラメータ]> [録画パラメータ]に進みます。

手順4 カメラのイベントメインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。

手順5 [ストレージ]> [録画スケジュール]に進みます。

手順6 録画タイプ[イベント]を選択します。

手順7 タイムバー上でマウスをドラッグして、イベント検知録画スケジュールを設定します。詳細は7.4 録画スケジュールの設定の章を参照してください。

8. アラームトリガー録画の設定

動体検知、顔検知、車両検知、ラインクロス検知などでトリガーされる録画を設定できます。

手順1 [システム]> [イベント]> [通常イベント]> [アラーム入力]に進みます。

手順2 アラーム入力を設定し、アラームが発生したときに録画をトリガーするチャンネルを選択します。詳細は第11章 イベントとアラーム設定と第13章 VCA イベントアラームを参照してください。

手順3 [カメラ]> [エンコードパラメータ]> [録画パラメータ]に進みます。

手順4 カメラのイベントメインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。

手順5 [ストレージ]> [録画スケジュール]に進みます。

手順6 録画タイプ[アラーム]を選択します。

ファイル管理

1. 全ファイルの検索とエクスポート

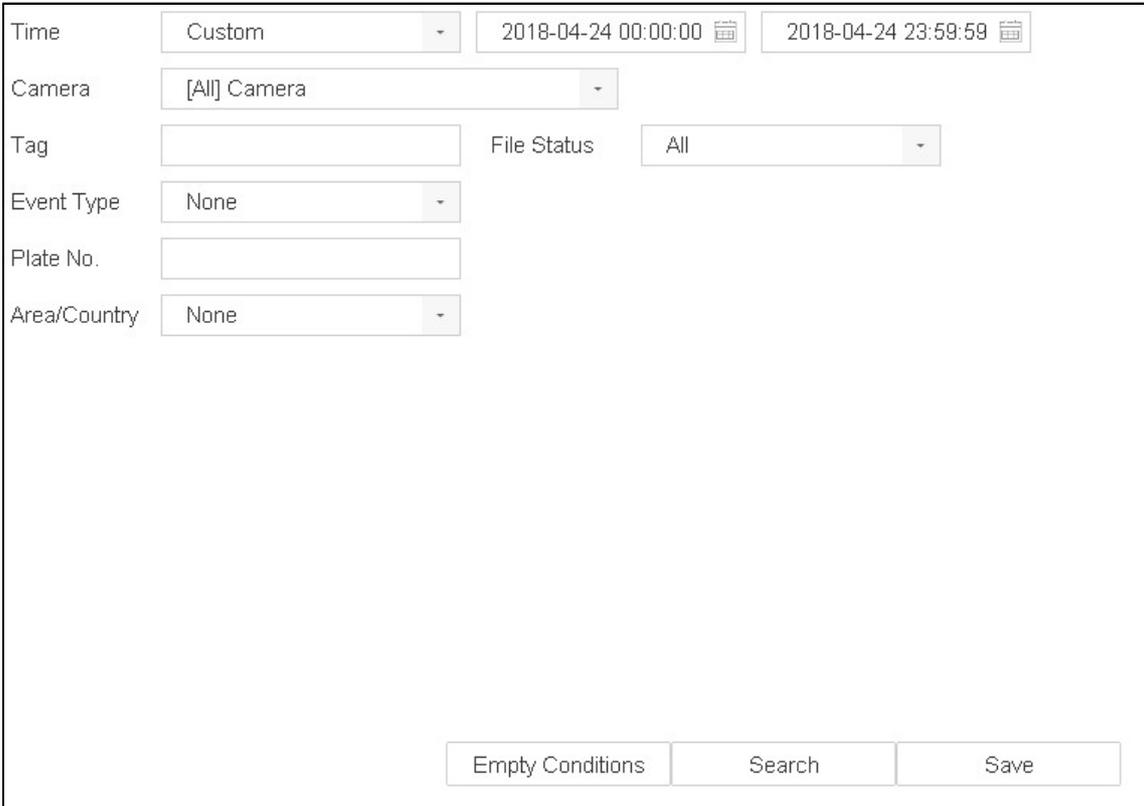
1. ファイルの検索

目的

ビデオや画像を検索するための、詳細な条件を指定します。

手順1 [ファイル管理] > [すべてのファイル]に進みます。

手順2 時間、カメラ、イベントタイプなどを含む詳細な条件を指定します。



The screenshot shows a search interface with the following fields and controls:

- Time:** A dropdown menu set to "Custom", with two date-time input fields: "2018-04-24 00:00:00" and "2018-04-24 23:59:59".
- Camera:** A dropdown menu set to "[All] Camera".
- Tag:** An empty text input field.
- File Status:** A dropdown menu set to "All".
- Event Type:** A dropdown menu set to "None".
- Plate No.:** An empty text input field.
- Area/Country:** A dropdown menu set to "None".

At the bottom of the form, there are three buttons: "Empty Conditions", "Search", and "Save".

図 9-1 すべてのファイルの検索

手順3 [検索]をクリックして、結果を表示します。一致したファイルが表示されます。

ファイルのエクスポート

目的

USB デバイス (USB フラッシュドライブ、USB HDD、USB 光ディスクドライブ)、SATA 光ディスクドライブ、または eSATA HDD を使用して、バックアップ目的でファイルをエクスポート

ートします。

手順1 エクスポートするファイルを検索します。詳細は 9.1.1 ファイルの検索をご覧ください。

手順2 クリックしてファイルを選択して、[エクスポート]をクリックします。

手順3 [ビデオとログ]としてエクスポートするファイルを選択し、[OK]をクリックします。

手順4 [OK]をクリックして、ファイルをバックアップデバイスにエクスポートします。

2. 人物ファイルの検索とエクスポート

1. 人物ファイルの検索

目的

人物の動画や画像検索の詳細条件を指定します。

開始前

人物の動画や画像を検索およびエクスポートするカメラの人体検出機能を設定します。

手順1 [ファイル管理]>[人物ファイル]に進みます。

手順2 検索する[時間]と[カメラ]を選択します。

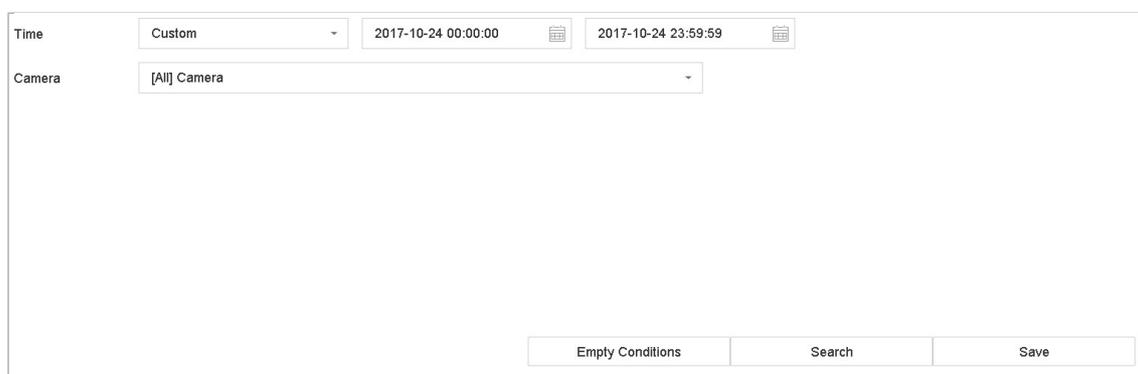


図 9-2 人物ファイルの検索

手順3 [検索]をクリックして、結果を表示します。一致したファイルはサムネイルまたはリスト表示されます。

手順4 関連画像のみを表示するには、メニューバーの[ターゲット画像]または[ソース画像]を選択します。

- ターゲット画像：人物の拡大画像の検索結果を表示します。
- ソース画像：カメラでキャプチャーした元画像の検索結果を表示します。

人物ファイルのエクスポート

目的

USB デバイス（USB フラッシュドライブ、USB HDD、USB 光ディスクドライブ）、SATA 光ディスクドライブ、または eSATA HDD を使用して、バックアップ目的でファイルのエクスポートします。

手順 1 エクスポートする人物ファイルを検索します。詳細は 9.2.1 人物ファイルの検索をご覧ください。

手順 2 クリックしてファイルを選択して、[エクスポート]をクリックします。

手順 3 [ビデオとログ]としてエクスポートするファイルを選択し、[OK]をクリックします。

手順 4 [OK]をクリックして、ファイルをバックアップデバイスにエクスポートします。

3. 車両ファイルの検索とエクスポート

1. 車両ファイルの検索

目的

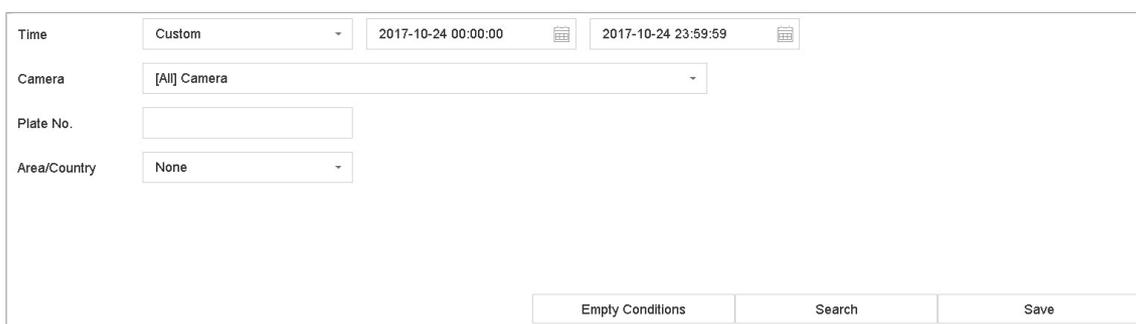
車両の動画や画像検索の詳細条件を指定します。

開始前

車両の動画や画像を検索およびエクスポートするカメラの、車両検出機能を設定します。

手順 1 [ファイル管理]>[車両ファイル]に進みます。

手順 2 時間、カメラ、プレート番号、地域/国などの詳細な条件を指定します。



Time	Custom	2017-10-24 00:00:00	2017-10-24 23:59:59
Camera	[All] Camera		
Plate No.			
Area/Country	None		
Empty Conditions		Search	Save

図 9-3 車両ファイルの検索

手順 3 [検索]をクリックして、結果を表示します。一致したファイルはサムネイルまたはリスト表示されます。

手順 4 関連画像のみを表示するには、メニューバーの[ターゲット画像]または[ソース画像]を選択します。[ビデオ]または[画像]を選択して、ファイルの種類を指定します。

- ターゲット画像：車両の拡大画像の検索結果を表示します。
- ソース画像：カメラでキャプチャーした元画像の検索結果を表示します。

車両ファイルのエクスポート

目的

USB デバイス（USB フラッシュドライブ、USB HDD、USB 光ディスクドライブ）、SATA 光ディスクドライブ、または eSATA HDD を使用して、バックアップ目的でファイルをエクスポートします。

手順1 エクスポートする車両ファイルを検索します。詳細は 9.3.1 車両ファイルの検索をご覧ください。

手順2 クリックしてファイルを選択して、[エクスポート]をクリックします。

手順3 [ビデオとログ]としてエクスポートするファイルを選択し、[OK]をクリックします。

手順4 [OK]をクリックして、ファイルをバックアップデバイスにエクスポートします。

4. 検索履歴の操作

1. 検索条件の保存

目的

今後の参照およびクイック検索用に検索条件を保存できます。

手順1 [ファイル管理]>[すべてのファイル/人物外観ファイル/車両ファイル]に進みます。

手順2 検索条件を設定します。

手順3 [保存]をクリックします。

手順4 テキストフィールドに名前を入力して[完了]をクリックします。保存した検索条件が、[検索条件]に表示されます。

2. 検索履歴の呼び出し

目的：

検索履歴を呼び出して、ファイルをすばやく検索できます。

手順1 [ファイル管理]>[すべてのファイル/人物ファイル/車両ファイル]に進みます。

手順2 [検索条件]内の検索条件をクリックして、迅速にファイルを検索します。

再生

1. ビデオファイルの再生

1. 簡易再生

簡易再生では、デバイスは録画したビデオファイルの最後の5分間を再生することが可能です。ビデオが見つからない場合は、過去5分間に録画がないことを意味します。

手順1 選択したカメラの[ライブビュー]ウィンドウで、ウィンドウ下部のカーソルを移動してツールバーにアクセスします。

手順2  をクリックすると、簡易再生が始まります。



図 10-1 再生インターフェイス

通常映像の再生

手順1 [再生]に進みます。

手順2 [チャンネル]リストから単数または複数のカメラを選択して、映像再生を開始します。

手順3 カレンダーで日付を選択します。

- 再生インターフェイス下部のツールバーを使って、一連の操作の再生や実行を制御します。10.2 再生の操作 8.2 章を参照してください。



図 10-2 再生インターフェイス



図 10-3 再生ツールバー

- 複数チャンネルの同時再生を実行するチャンネルをクリックします。

NOTE

256 倍速の再生速度をサポートします。

スマート検索ビデオの再生

スマート再生モードでは、動作、ライン超え、侵入検知情報を含めた映像を解析し、赤のマークを付けて、スマート検索映像の再生が可能です。

NOTE

スマート再生は、シングルチャンネル再生モードにする必要があります。

手順 1 [再生]に進みます。

手順 2 カメラのビデオを再生開始します。

手順 3 [スマート]をクリックします。

手順4 再生ウィンドウの下にあるツールバーから、検索する動体検知/ラインクロス/侵入アイコンをクリックします。



図 10-4 スマートサーチによる再生

手順5 ライン横断検知、侵入検知、動体検知イベントによってトリガーされた録画のスマートサーチ規則と領域を設定します。

- ラインクロス検知

- 5)  アイコンをクリックします。
- 6) 画像をクリックして、ラインの開始点と終了点を指定します。

- 侵入検知

- 7)  アイコンをクリックします。
- 8) 侵入検知用の四辺形領域を設定するには、4点を指定します。設定できる領域は1つだけです。

- 動体検知

- 9)  アイコンをクリックします。
- 10) 画像の上でマウスを押したまま、手動で検出領域を描画します。
- 11) 一致したビデオを検索し、再生を開始するには、[検索 ]をクリックします。

カスタム検索ファイルの再生

さまざまな条件でカスタム検索によってファイルを再生できます。

手順1 [再生]に進みます。

手順2 リストからカメラを1台または複数台選択します。

手順3 左下の[カスタム検索]から検索条件インターフェイスを開きます。

手順4 ファイルの検索条件（時間、ファイルステータス、イベントタイプなど）を入力します。

Time	Custom	2017-10-01 00:00:00	2017-10-23 23:59:59
Tag	A	File Status	All
Event Type	None		
Plate No.			
Area/Country	None		

Empty Conditions Search Save

図 10-5 カスタム検索

手順5 [検索]をクリックします。

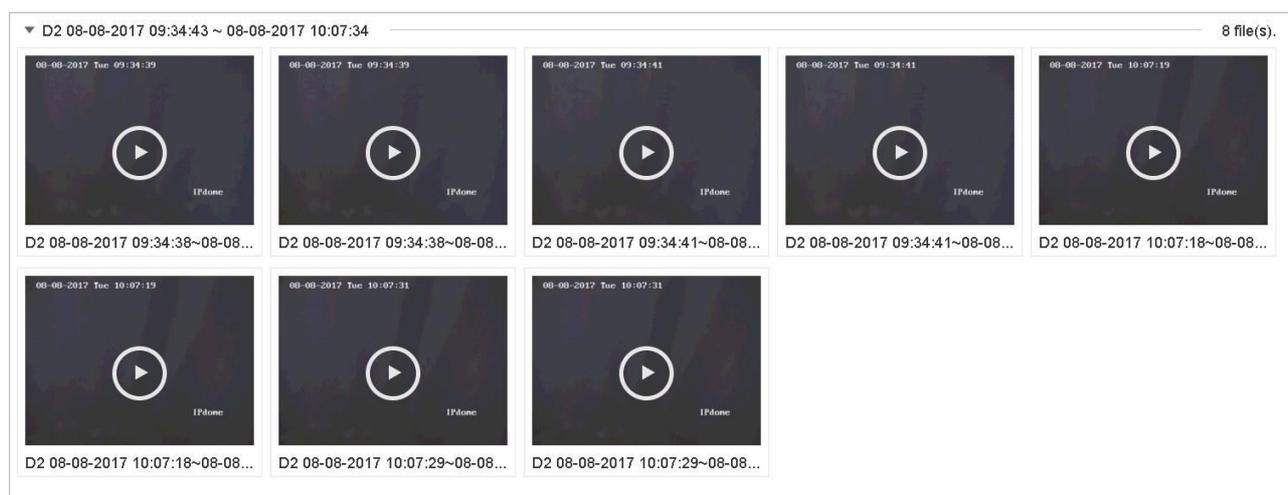


図 10-6 カスタム検索ビデオファイル

手順6 検索結果インターフェイスでファイルを選択し、クリックしてビデオを再生開始します。

タグ付きファイルの再生

目的：

ビデオタグを使用すると、再生中の特定の時点の人物や場所などの関連情報を記録できます。ビデオタグを使用して、ビデオファイルを検索し、タイムポイントを配置することができます。

タグ再生の前：

タグ付きファイルの追加

手順1 [再生]に進みます。

手順2 ビデオファイルを検索して、再生します。

手順3  をクリックしてタグを追加します。

手順4 タグ情報を編集します。

手順5 [OK]をクリックします。

NOTE

1つのビデオファイルに最大64個のタグを追加できます。

タグ付きファイルの編集

手順1 [再生]に進みます。

手順2 [タグ]をクリックします。

利用可能なタグは白色でマークされ、タイムバーに表示されます。

手順3 タグ情報にアクセスするには、タイムバーの白色でマークされたタグをポイントします。

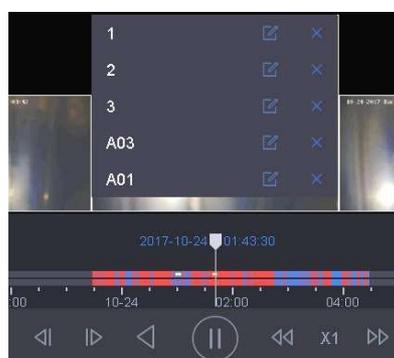


図 10-7 タグ付きファイルの編集

手順4  をクリックして、タグ名を編集します。

手順5 [OK]をクリックします。

タグ付きファイルの再生

手順1 [再生]に進みます。

手順2 左下の[カスタム検索]から検索条件インターフェイスを開きます。

手順3 時間やタグのキーワードなど、タグ付きファイルの検索条件を入力します。

Time: Custom | 2017-10-01 00:00:00 | 2017-10-23 23:59:59

Tag: A | File Status: All

Event Type: None

Plate No.:

Area/Country: None

Empty Conditions | Search | Save

図 10-8 タグ検索

手順 4 [検索]をクリックします。

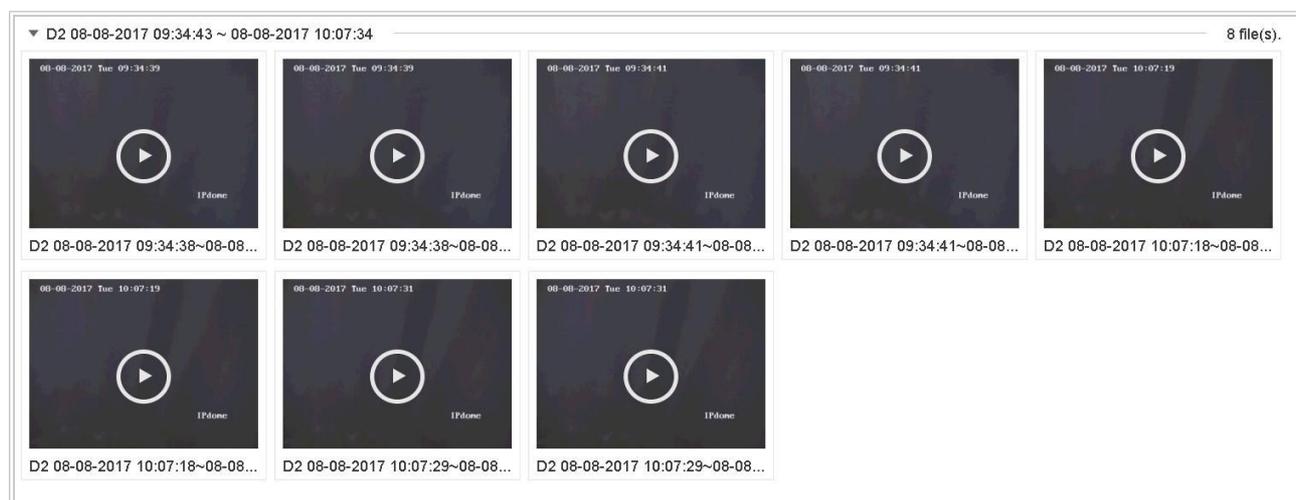


図 10-9 検索したタグ付きファイル

手順 5 検索結果インターフェイスでタグファイルを選択し、クリックしてビデオを再生開始します。

イベントファイルの再生

目的

イベントタイプ（アラーム入力、動体検知、ラインクロス検知、顔検知、車両検知など）で検索された1つまたは複数のチャンネルでビデオファイルを再生します。

手順 1 [再生]に進みます。

手順 2 左下の[カスタム検索]から検索条件インターフェイスを開きます。

手順 3 時刻、イベントタイプ、ファイルステータス、車両情報（車両検知イベント用）

などのイベントファイルの検索条件を入力します。

手順4 [検索]をクリックします。

手順5 検索結果インターフェイスで、イベントビデオファイル/画像ファイルを選択し、ダブルクリックしてビデオの再生を開始します。

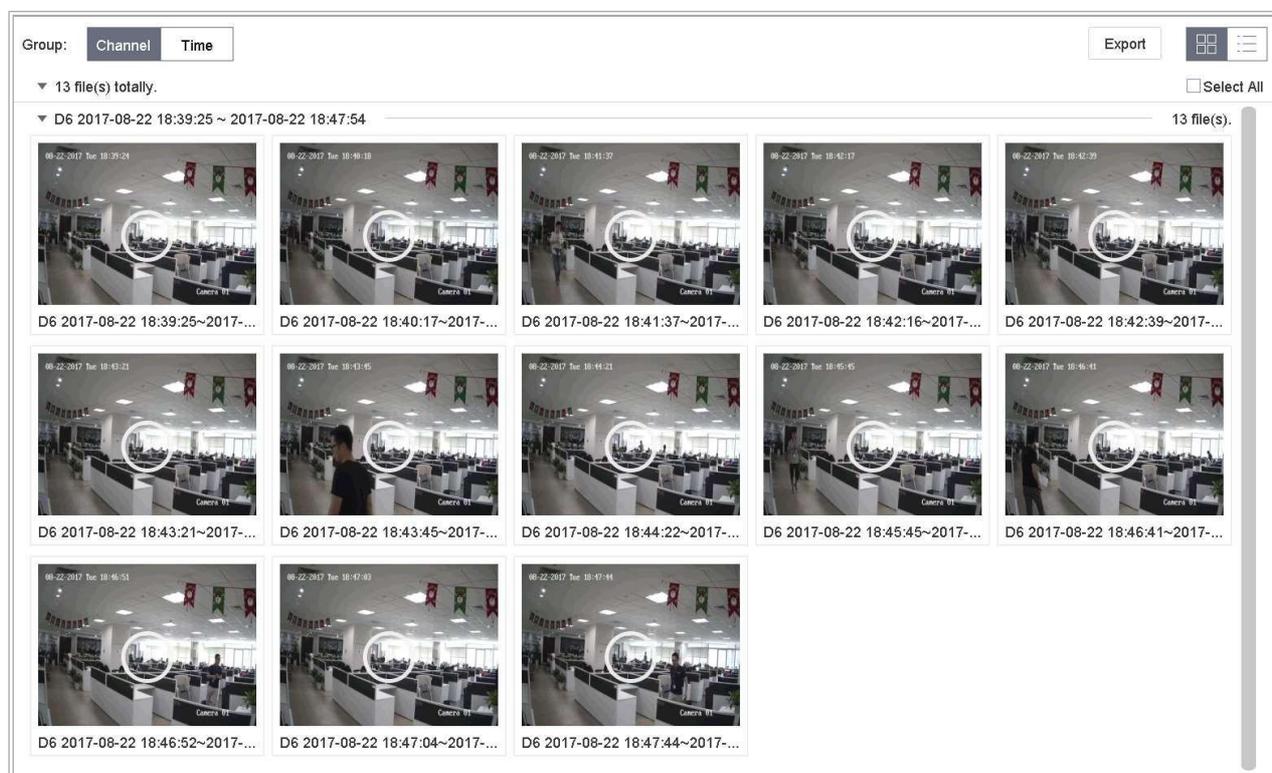


図 10-10 イベントファイル

手順6 またはボタンを押  すと 、30 秒間後ろまたは前に再生できます。

NOTE

- イベントとアラーム設定の詳細は第 11 章イベントとアラーム設定と第 13 章 VCA イベントアラームを参照してください。
- イベントトリガー録画/キャプチャー設定はの章 7.7 イベントトリガー録画の設定を参照してください。

時間差再生

目的：

ビデオファイルは、画面上で複数の時間差同時再生が可能です。

手順1 [再生]に進みます。

手順2 左下の  アイコンを選択して、時間差再生モードに入ります。

手順3 カメラを選択します。

手順4 ビデオ検索の開始時間と終了時間を設定します。

手順5 右下の異なる複数期間（例えば4期間）を選択します。

 NOTE

定義した画面分割数に従って、選択された日付のビデオファイルを再生用の平均セグメントに分割することができます。例えば、ビデオファイルが 16:00~22:00 の間にあり、6 画面モードを選択すると、各画面で同時にビデオファイルを1時間分再生できます。

ログファイルの再生

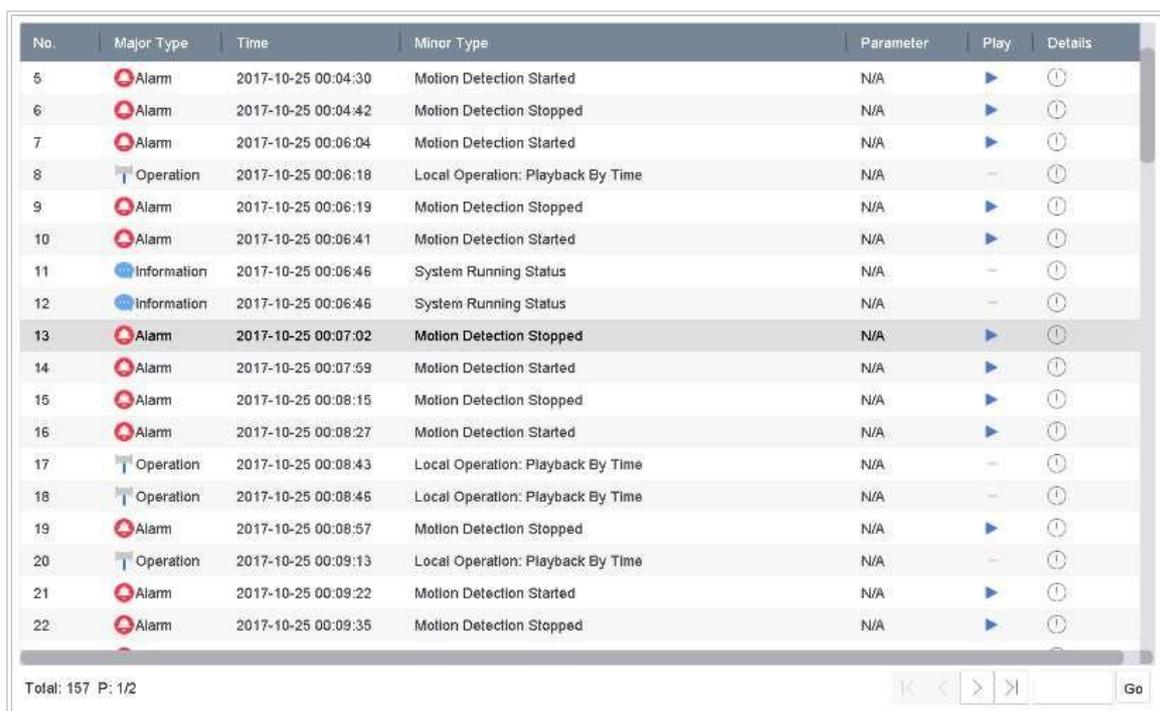
目的：

システムログを検索後、チャンネルに関連付けられた録画ファイルを再生します。

手順1 [メンテナンス]>[ログ情報]に進みます。

手順2 [ログ検索]タブをクリックすると、システムログによる再生が始まります。

手順3 時間とタイプを設定して、[検索]をクリックします。



No.	Major Type	Time	Minor Type	Parameter	Play	Details
5	Alarm	2017-10-25 00:04:30	Motion Detection Started	N/A	▶	ⓘ
6	Alarm	2017-10-25 00:04:42	Motion Detection Stopped	N/A	▶	ⓘ
7	Alarm	2017-10-25 00:06:04	Motion Detection Started	N/A	▶	ⓘ
8	Operation	2017-10-25 00:06:18	Local Operation: Playback By Time	N/A	–	ⓘ
9	Alarm	2017-10-25 00:06:19	Motion Detection Stopped	N/A	▶	ⓘ
10	Alarm	2017-10-25 00:06:41	Motion Detection Started	N/A	▶	ⓘ
11	Information	2017-10-25 00:06:46	System Running Status	N/A	–	ⓘ
12	Information	2017-10-25 00:06:46	System Running Status	N/A	–	ⓘ
13	Alarm	2017-10-25 00:07:02	Motion Detection Stopped	N/A	▶	ⓘ
14	Alarm	2017-10-25 00:07:59	Motion Detection Started	N/A	▶	ⓘ
15	Alarm	2017-10-25 00:08:15	Motion Detection Stopped	N/A	▶	ⓘ
16	Alarm	2017-10-25 00:08:27	Motion Detection Started	N/A	▶	ⓘ
17	Operation	2017-10-25 00:08:43	Local Operation: Playback By Time	N/A	–	ⓘ
18	Operation	2017-10-25 00:08:46	Local Operation: Playback By Time	N/A	–	ⓘ
19	Alarm	2017-10-25 00:08:57	Motion Detection Stopped	N/A	▶	ⓘ
20	Operation	2017-10-25 00:09:13	Local Operation: Playback By Time	N/A	–	ⓘ
21	Alarm	2017-10-25 00:09:22	Motion Detection Started	N/A	▶	ⓘ
22	Alarm	2017-10-25 00:09:35	Motion Detection Stopped	N/A	▶	ⓘ

Total: 157 P: 1/2

図 10-11 システムログ検索インターフェイス

手順4 ビデオファイルのあるログを選択し、をクリックしてログファイルを再生を開始します。

外部ファイルの再生

目的：

外部ストレージデバイスからファイルを再生できます。

開始前：

ビデオファイルのあるストレージデバイスをデバイスに接続します。

手順 1 [再生]に進みます。

手順 2 左下の  アイコンをクリックします。

手順 3 選択してから、  ボタンを選択するか、再生するファイルをダブルクリックします。

2. 再生の操作

1. スマート/カスタムモードでの再生計画の設定

目的：

スマートまたはカスタムビデオ再生モードでは、通常ビデオとスマート/カスタムビデオの再生速度を個別に設定することも、通常ビデオをスキップ選択することもできます。

スマート/カスタムビデオ再生モードの場合には、  をクリックして、再生計画を設定します。

- [通常ビデオを再生しない]をオンにすると、デバイスは通常ビデオをスキップし、スマート（動体/ラインクロス/侵入）ビデオとカスタム（検索ビデオ）のみを通常速度(X1)で再生します。
- [通常ビデオを再生しない]がオフの場合、通常のビデオとスマート/カスタムビデオの再生速度を個別に設定することができます。速度範囲は X1~XMAX です。

NOTE

シングルチャンネル再生モード中のみ、速度の設定が可能です。

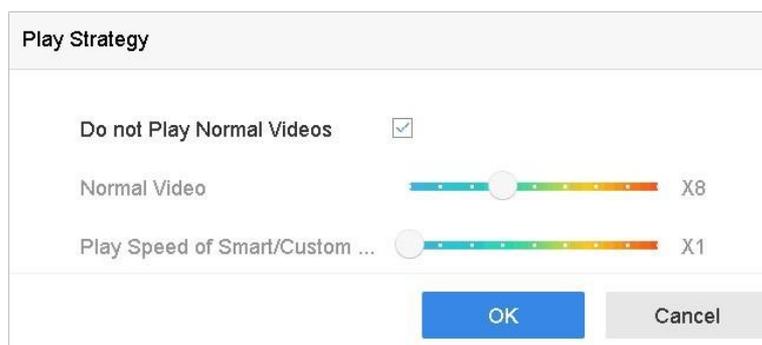


図 10-12 再生計画

ビデオクリップの編集

再生中にビデオクリップを取得し、クリップをエクスポートできます。

ビデオ再生モードで、をクリックして、ビデオクリップ操作を開始します。

- : ビデオクリップの開始時間と終了時間を設定します。
- : ビデオクリップをローカルストレージデバイスにエクスポートします。

メインストリームとサブストリームを切り替える

再生中に、メインストリームとサブストリーム間で切り替えます。(iDS-7200HQHI-K/S と iDS-7200HUHI-K/S シリーズを除く)

: メインストリームでビデオを再生します。

: サブストリームでビデオを再生します。

サムネイル表示

再生インターフェイスのサムネイル表示を使用すると、タイムバーで必要なビデオファイルを簡単に見つけることができます。

ビデオ再生モードで、マウスをタイムバーに移動してビデオファイルのプレビューサムネイルをプレビュー表示します。

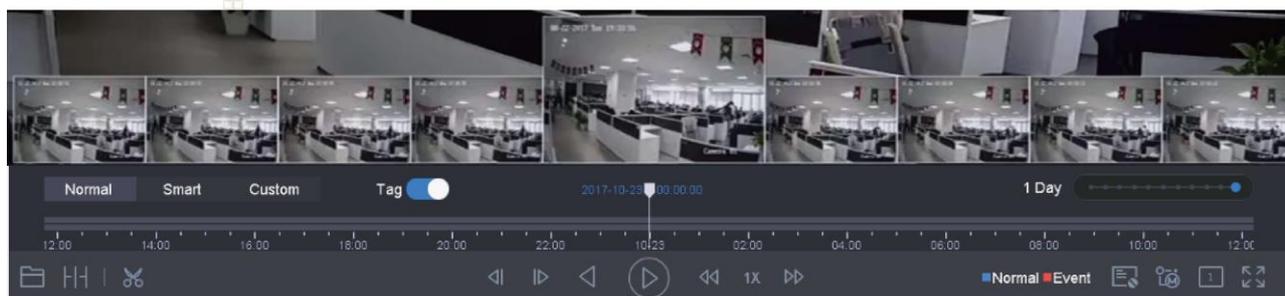


図 10-13 サムネイル表示

必要なサムネイルをクリックして、全画面再生を入力します。

NOTE

iDS-7200HQHI-K/S と iDS-7200HUHI-K/S シリーズ では、この機能に対応していません。

5. 高速ビュー

マウスを押したままタイムバーの上にドラッグすると、ビデオファイルが高速表示できます。

ビデオ再生モードでは、マウスを使用して再生タイムバーを押したままドラッグすると、ビデオファイルを高速表示できます。

必要な時点でマウスを放すと、全画面再生が始まります。

6. デジタルズーム

ビデオ再生モードで、ツールバーから  をクリックして、デジタルズームインターフェイスを開きます。

スライダーを動かす、またはマウスホイールをスクロールして、映像をさまざまな比率（1～16倍）で拡大/縮小することができます。



図 10-14 デジタルズーム

イベントとアラーム設定

アラームスケジュールの設定

手順1 [アラームスケジュール]タブを選択します。

手順2 週の曜日を選択し、時間帯を設定します。1日に最大8つの時間帯を設定できます。



NOTE

時間帯は繰り返したり、重ねることはできません。

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
Mon	[Continuous]													1
Tue	[Continuous]													2
Wed	[Continuous]													3
Thu	[Continuous]													4
Fri	[Continuous]													5
Sat	[Continuous]													6
Sun	[Continuous]													7

図 11-1 アラームスケジュールの設定

手順3 [適用]をクリックして、設定を保存します。

アラーム連携アクションの設定

目的：

イベントヒント表示、全画面監視、音声警告（ブザー）、監視センターに通知、アラーム出力のトリガー、電子メール送信など、アラームまたは異常が発生したときに、アラーム連携アクションが有効になります。

自動切り替え全画面監視の設定

アラームがトリガーされると、ローカルモニターは全画面監視用に設定されたアラームチャンネルからのビデオ映像をフルスクリーンで表示します。そして、アラームが複数のチャンネルで同時にトリガーされた場合は、自動切り替え間隔を設定する必要があります。

手順 1 [システム]>[表示]>[全般]に進みます。

手順 2 イベント出力と切り替え間隔を設定します。

- イベント出力：イベントビデオを表示する出力を選択します。
- 全画面監視の切り替え間隔：アラームイベント画面を表示する時間を秒数で設定します。アラームが複数のチャンネルで同時にトリガーされた場合、それらのフルスクリーン映像は 10 秒間隔で切り替わります（デフォルトの切り替え間隔）。

手順 3 アラーム検知（動体検知検知、ビデオタンパリング、顔検知など）の[連携アクション]インターフェイスに進みます。

手順 4 全画面監視アラーム連携アクションを選択します。

手順 5 全画面監視にしたいチャンネルを、[トリガーチャンネル]設定で選択します。



アラームが停止しすると自動切り替えは終了し、ライブビューインターフェイスに戻ります。

2. 音声警告の設定

音声警告では、アラームが検出されたときにビープ音を鳴らすことができます。

手順 1 [システム]>[表示]>[全般]に進みます。

手順 2 音声出力を有効にして、音量を設定します。

手順 3 アラーム検知（動体検知検知、ビデオタンパリング、顔検知など）の[連携アクション]インターフェイスに進みます。

手順 4 音声警告アラーム連携アクションを選択します。

3. 監視センターに通知する

イベントが発生すると、デバイスはリモートアラームホストに例外またはアラーム信号を送信します。アラームホストは、クライアントソフトウェア（iVMS-4200、iVMS-5200 など）がインストールされた PC を参照します。

手順 1 [システム]>[ネットワーク]>[詳細]>[詳細設定]に進みます。

手順 2 アラームホスト IP とアラームホストポートを設定します。

手順3 アラーム検知（動体検知検知、ビデオタンパリング、顔検知など）の[連携アクション]インターフェイスに進みます。

手順4 [監視センターに通知する]を選択します。

4. 電子メール連携の設定

アラームが検出されると、アラーム情報が電子メールでユーザーに送信されます。

電子メール設定の詳細は 16.7 電子メールの設定の章を参照してください。

手順1 [システム]>[ネットワーク]>[詳細]に進みます。

手順2 電子メールを設定します。

手順3 アラーム検知（動体検知検知、ビデオタンパリング、顔検知など）の[連携アクション]インターフェイスに進みます。

手順4 メール送信アラーム連携アクションを選択します。

5. アラーム出力のトリガー

アラーム出力は、アラーム入力、動体検知、ビデオタンパリング検知、顔検知、ラインクロス検知、その他すべてのイベントによってトリガーできます。

手順1 アラーム入力またはイベント検知（動体検知、顔検知、ラインクロス検知、侵入検知など）の[連携アクション]インターフェイスに進みます。

手順2 [アラーム出力のトリガー]タブをクリックします。

手順3 トリガーするアラーム出力を選択します。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[アラーム出力]に進みます。

手順2 リストからアラーム出力項目を選択します。



アラーム出力設定は 11.6.3 アラーム出力の設定の章を参照してください。

PTZ 連携の設定

アラートイベントまたはVCA 検知イベント発生時には、PTZ アクション（例えばプリセット/パトロール/パターンの呼び出し）をトリガーできます。



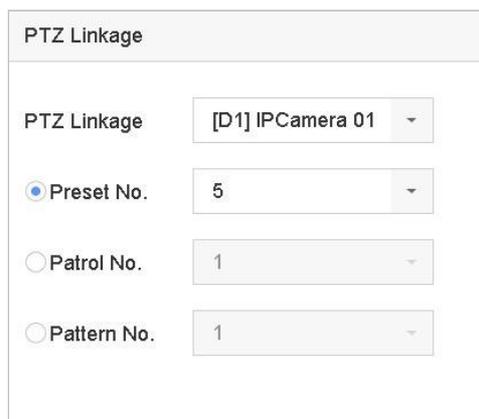
接続された PTZ またはスピードドームが PTZ 連携をサポートしていることを確認してください。

手順1 アラーム入力またはVCA検知（顔検知、ラインクロス検知、侵入検知など）の[連携アクション]インターフェイスに進みます。

手順2 [PTZ 連携]を選択します。

手順3 PTZ アクションを実行するカメラを選択します。

手順4 アラームイベント発生時に呼び出すプリセット/パトロール/パターン番号を選択します。



PTZ Linkage	
PTZ Linkage	[D1] IPCamera 01
<input checked="" type="radio"/> Preset No.	5
<input type="radio"/> Patrol No.	1
<input type="radio"/> Pattern No.	1

図 11-2 PTZ 連携

 NOTE

毎回連携アクションに対して、1つのPTZタイプのみを設定できます。

動体検知アラームの設定

動体検知は、デバイスが監視領域内の移動オブジェクトを検出し、アラームをトリガーすることを可能にします。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[動体検知]に進みます。

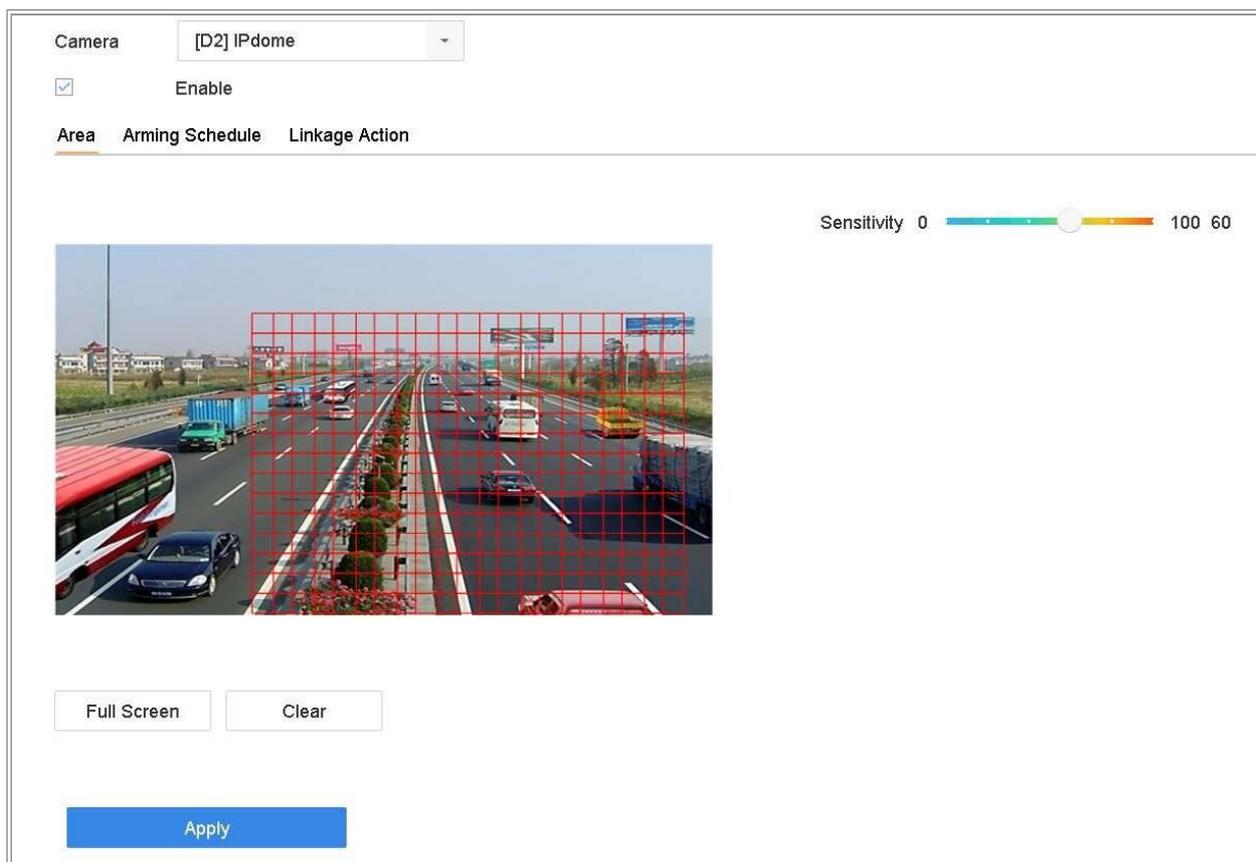


図 11-3 動体検知の設定

手順 2 動体検知を設定するカメラを選択します。

手順 3 [有効にする]を選択します。

手順 4 動体検知エリアを設定します。

- 全画面：クリックすると、映像の全画面動体検知が設定されます。
- カスタマイズエリア：マウスを使用してプレビュー画面をクリック&ドラッグし、カスタマイズモーション検知領域を描画します。

[消去]をクリックして、現在の動体検知領域設定を消去し、再度描画できます。

手順 5 感度を設定します(0-100)。感度はアラームがどれくらい動きによってトリガーされるかを調整します。値が大きいほど、動体検知がトリガーされやすくなります。

手順 6 アラームスケジュールを設定します。の章を参照してください。11.1 アラームスケジュールの設定

手順 7 連携アクションを設定します。の章を参照してください。11.2 アラーム連携アクションの設定

ビデオロスアラームの設定

目的：

ビデオロス検知は、チャンネルのビデオロスを検出し、対応をアラームします。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[ビデオロス]の順に移動します。

Camera [D1] IPCamera 01

Enable

Arming Schedule Linkage Action

Continuous None Edit

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
Mon	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	1
Tue	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	2
Wed	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
Thu	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	4
Fri	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	5
Sat	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	6
Sun	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	7

Apply

図 11-4 ビデオロス検出の設定

手順2 ビデオロス検知を設定するカメラを選択します。

手順3 [有効にする]を選択します。

手順4 アラームスケジュールを設定します。の章を参照してください。11.1 アラームスケジュールの設定

手順5 連携アクションを設定します。の章を参照してください。11.2 アラーム連携アクションの設定

ビデオタンパリングアラームの設定

目的：

ビデオタンパリング検知は、カメラレンズが覆われたときにアラームをトリガーし、アラーム応答アクションを実行することを可能にします。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[ビデオタンパリング]に進みます。

手順2 ビデオタンパリング検知を設定するカメラを選択します。

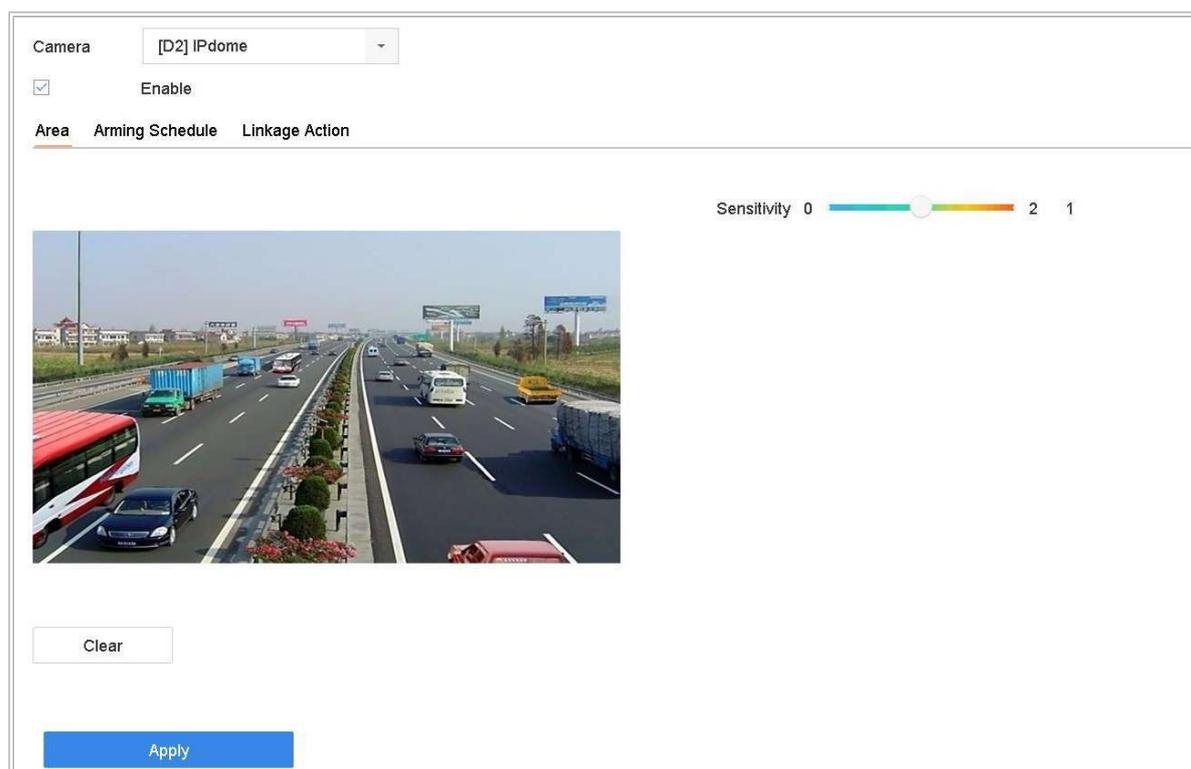


図 11-5 ビデオタンパリングの設定

手順3 [有効にする]を選択します。

手順4 ビデオタンパリングエリアを設定します。マウスを使用してプレビュー画面をクリック&ドラッグし、カスタマイズビデオタンパリング領域を描画します。

[消去]をクリックして、現在の領域設定を消去し、再度描画できます。

手順5 感度レベルを設定します(0-2)。3つのレベルがあります。感度はアラームがどれくらい動きによってトリガーされるかを調整します。値が大きいほど、ビデオタンパリング検知がトリガーされやすくなります。

手順6 アラームスケジュールを設定します。の章を参照してください。11.1 アラームスケジュールの設定

手順7 連携アクションを設定します。の章を参照してください。11.2 アラーム連携ア

クシヨンの設定

6. センサーアラームの設定

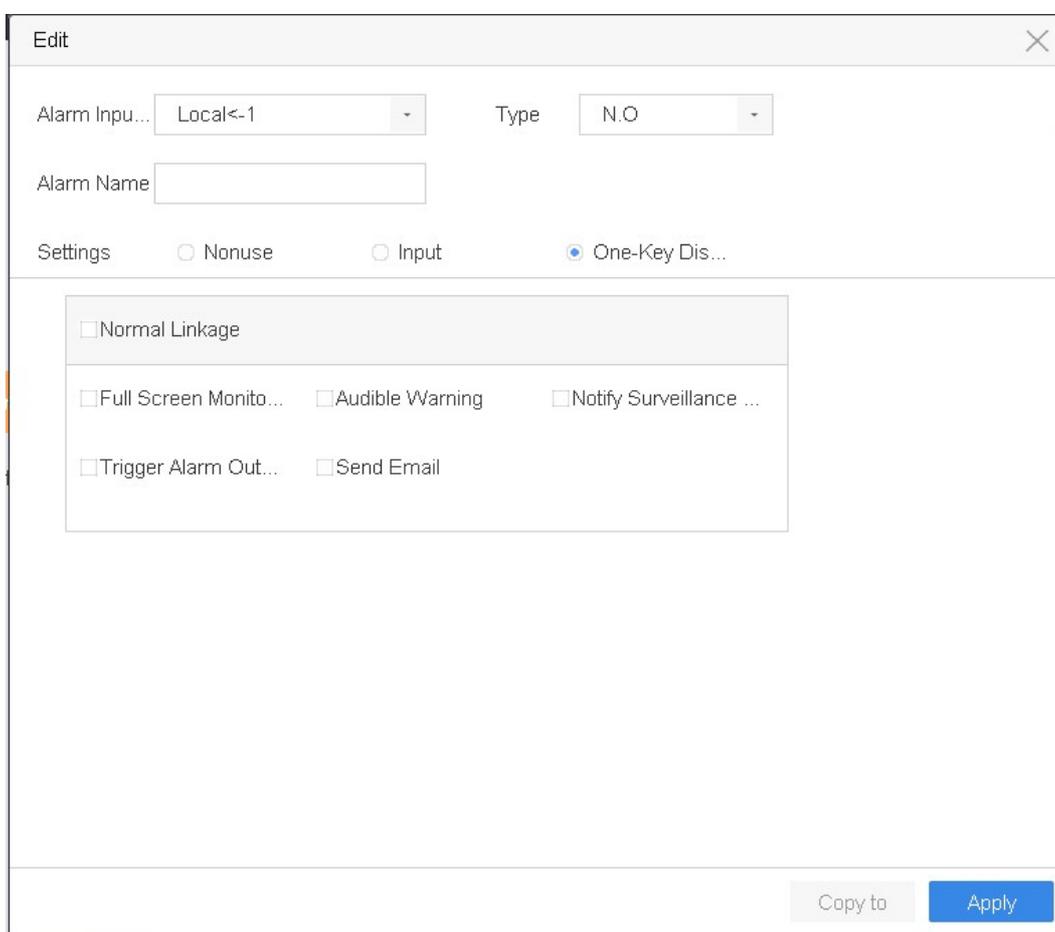
目的：

外部センサーアラームのアクション処理を設定します。

1. アラーム入力の設定

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[アラーム入力]に進みます。

手順2 リストからアラーム入力項目を選択し、 をクリックします。



The screenshot shows a dialog box titled "Edit" with a close button (X) in the top right corner. It contains the following fields and options:

- Alarm Input:** A dropdown menu showing "Local<-1".
- Type:** A dropdown menu showing "N.O".
- Alarm Name:** An empty text input field.
- Settings:** Three radio buttons: "Nonuse", "Input", and "One-Key Dis..." (which is selected).
- Action List:** A list of actions with checkboxes:
 - Normal Linkage
 - Full Screen Monito...
 - Audible Warning
 - Notify Surveillance ...
 - Trigger Alarm Out...
 - Send Email
- Buttons:** "Copy to" (disabled) and "Apply" (active) buttons at the bottom right.

図 11-6 アラーム入力

手順3 アラーム入力タイプを N.C または N.O に選択します。

手順4 [アラーム名]を編集します。

手順5 [入力]を選択します。

手順6 アラームスケジュールを設定します。の章を参照してください。11.1 アラームスケジュールの設定

手順7 連携アクションを設定します。の章を参照してください。11.2 アラーム連携アクションの設定

手順8 [適用]をクリックして、メッセージボックスの指示に従い機器を再起動して、設定を有効にします。

ワンタッチ警戒解除の設定

ワンタッチ警戒解除では、ワンタッチ操作でデバイスのアラーム入力1を解除できます。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[アラーム入力]に進みます。

手順2 リストからアラーム入力1項目を選択して、をクリックします。

手順3 アラーム入力タイプを N.C または N.O に選択します。

手順4 アラーム名を編集します。

手順5 [ワンタッチ警戒解除の有効化]ラジオボタンを選択します。

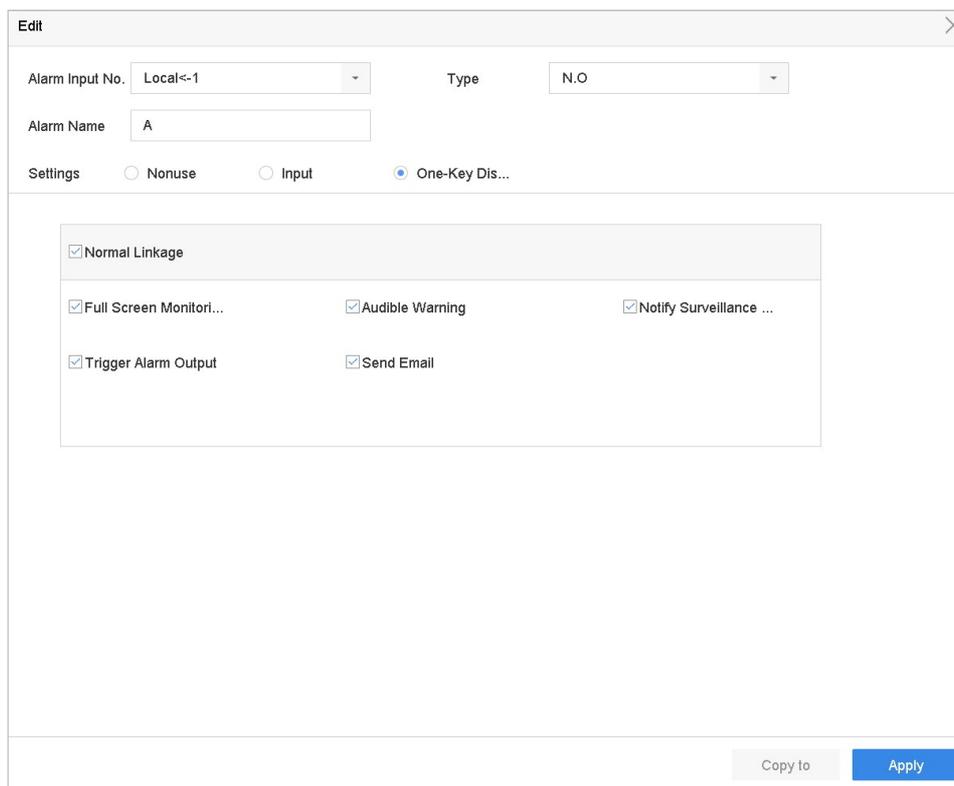


Figure 11-7 shows the 'Edit' dialog box for configuring alarm input settings. The dialog includes fields for 'Alarm Input No.' (set to 'Local<-1'), 'Type' (set to 'N.O'), and 'Alarm Name' (set to 'A'). Under the 'Settings' section, the 'One-Key Dis...' radio button is selected. A list of actions is shown with checkboxes: 'Normal Linkage', 'Full Screen Monitori...', 'Audible Warning', 'Notify Surveillance ...', 'Trigger Alarm Output', and 'Send Email'. At the bottom right, there are 'Copy to' and 'Apply' buttons.

図 11-7 ワンタッチ警戒解除

手順6 ローカルアラーム入力1で解除したいアラーム連携アクションを選択します。

 NOTE

アラーム入力1（ローカル<-1）でワンタッチ警戒解除が有効な場合には、他のアラーム入力設定はできません。

手順7 [適用]をクリックして、設定を保存します。

アラーム出力の設定

アラームがトリガーされたときに、アラーム出力をトリガーします。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[アラーム出力]に進みます。

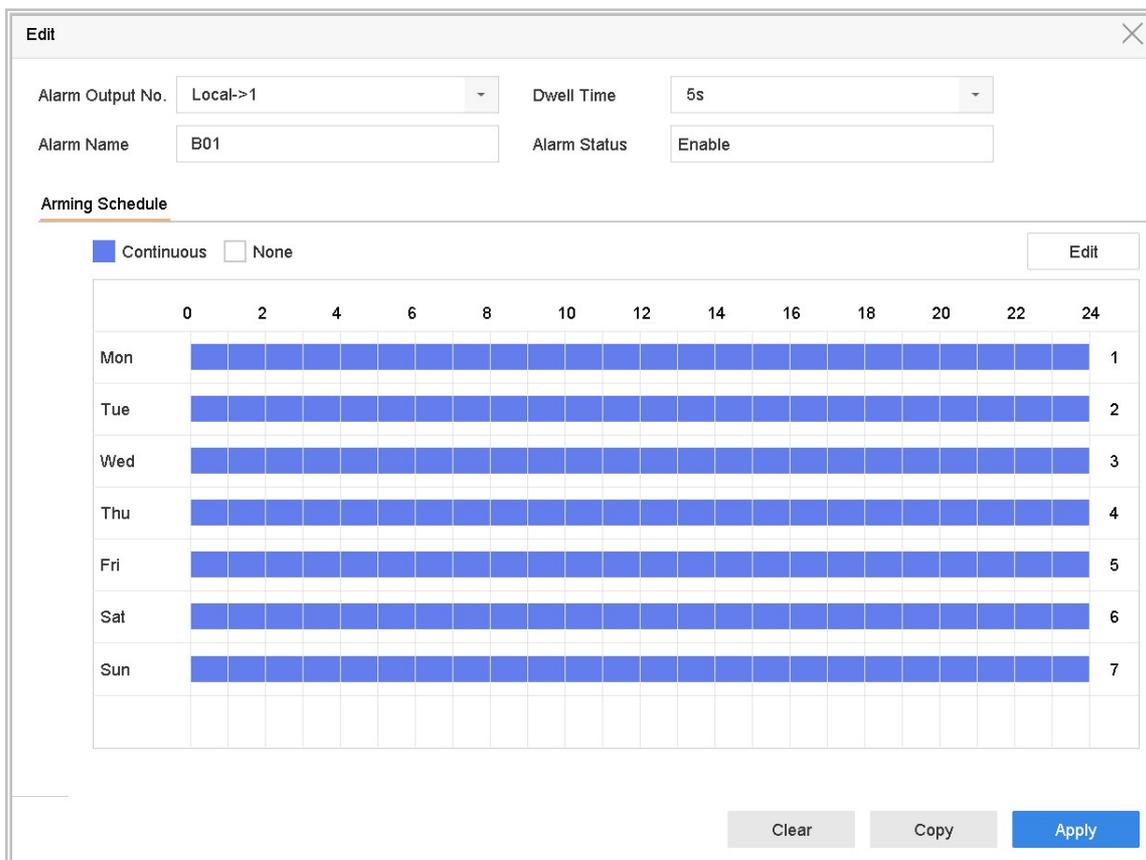
手順2 リストからアラーム出力項目を選択し、 をクリックします。

手順3 [アラーム名]を編集します。

手順4 [継続時間]で5秒から600秒までの間で選択するか、[手動クリア]を選択します。

手動解除：アラーム発生時には手動でアラームを解除する必要があります。詳細な手順は 11.8 アラーム出力の手動でのトリガーまたは解除の章を参照してください。

手順5 アラームスケジュールを設定します。の章を参照してください。11.1 アラームスケジュールの設定



Alarm Output No. Local->1 Dwell Time 5s

Alarm Name B01 Alarm Status Enable

Arming Schedule

Continuous None Edit

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
Mon	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	1
Tue	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	2
Wed	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3
Thu	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	4
Fri	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	5
Sat	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	6
Sun	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	7

Clear Copy Apply

図 11-8 アラーム出力

手順6 (オプション) [コピー]をクリックして、他のアラーム出力と同じ設定をコピーできます。

手順7 [適用]をクリックします。

7. 異常アラームの設定

異常イベントでは、[ライブビュー]ウィンドウでイベントヒントを取得し、アラーム出力と連携アクションをトリガーするように設定できます。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[例外]の順に移動します。

手順2 (オプション) [ライブビュー]ウィンドウのイベントヒントを表示するには、イベントヒントを有効にします。

- 1) [イベントヒントを有効にする]を選択します。
- 2)  をクリックして、イベントヒントを取得する異常タイプを選択します。

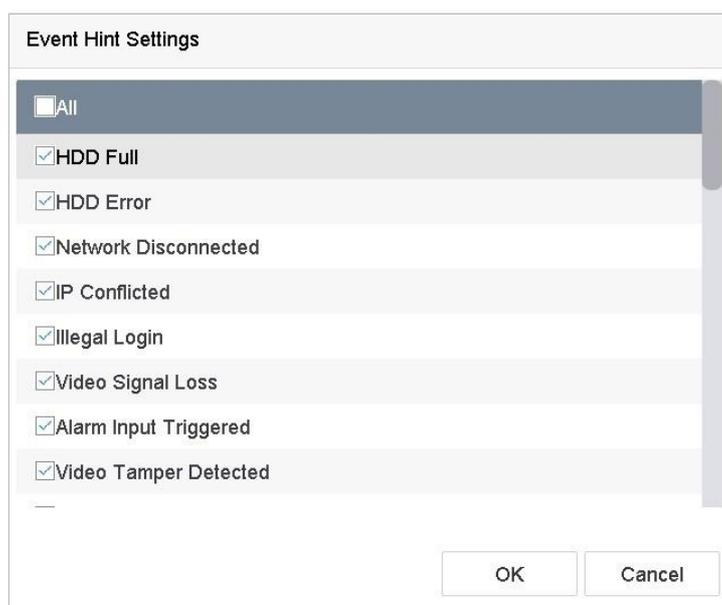


図 11-9 イベントヒント設定

手順3 ドロップダウンリストから例外タイプを選択して、リンケージ動作を設定します。

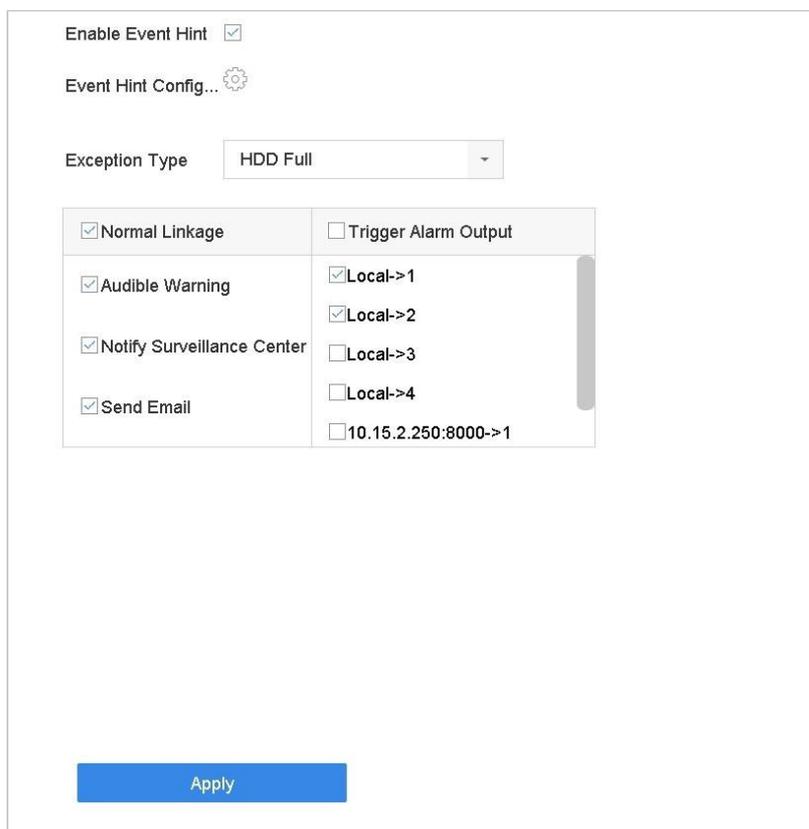


図 11-10 例外処理

手順4 通常連携と、アラーム出力トリガーを設定します。11.2 アラーム連携アクションの設定を参照してください。

11.8 アラーム出力の手動でのトリガーまたは解除

目的：

センサーアラームは手動でトリガーまたは解除できます。アラーム出力の継続時間で[手動クリア]が選択された場合、アラームは[クリア]をクリックするだけで消去できます。

手順1 [システム]>[イベント]>[通常イベント]>[アラーム出力]に進みます。

手順2 起動または消去したいアラーム出力を選択して、 をクリックします。

手順3 アラーム出力をトリガーまたは解除するには[トリガー/解除]をクリックします。

デジタルビデオレコーダークイックスタートガイド

Edit

Alarm Output No. Local->1 Dwell Time 5s

Alarm Name B01 Alarm Status Enable

Arming Schedule

	00	02	04	06	08	10	12	14	16	18	20	22	24
Mon	[Blue bar]												
Tue	[Blue bar]												
Wed	[Blue bar]												
Thu	[Blue bar]												
Fri	[Blue bar]												
Sat	[Blue bar]												
Sun	[Blue bar]												
Holiday	[Blue bar]												

× Delete 🗑 Delete All

Clear Copy Apply

図 11-11 アラーム出力

ネットワーク設定

TCP/IP 設定

目的

ネットワーク上で本機を操作する前に、TCP/IP を適切に設定する必要があります。

手順 1 [システム]>[ネットワーク]>[TCP/IP]に進みます。

The screenshot shows the TCP/IP configuration interface. At the top, there are tabs for TCP/IP, DDNS, PPPoE, NTP, and NAT. The TCP/IP tab is selected. The configuration fields are as follows:

Working Mode	Net Fault-Tolerance	Enable Obtain DNS...	<input type="checkbox"/>
Select NIC	bond0	Preferred DNS Server	<input type="text"/>
NIC Type	10M/100M/1000M Self-adap	Alternate DNS Server	<input type="text"/>
Enable DHCP	<input checked="" type="checkbox"/>		
IPv4 Address	10 . 15 . 2 . 107		
IPv4 Subnet Mask	255 . 255 . 255 . 0		
IPv4 Default Gateway	10 . 15 . 2 . 254		
MAC Address	a4:14:37:aa:09:a3		
MTU(Bytes)	1500		
Main NIC	LAN1		

An "Apply" button is located at the bottom left of the configuration area.

図 16-1 TCP/IP 設定

手順 2 動作モードからネットフォールトトレランスまたはマルチアドレスモードを選択します。

- ネットフォールトトレランス：2 枚の NIC カードで同じ IP アドレスを使用し、メイン NIC に LAN1 または LAN2 を選択できます。このようにして、1 枚の NIC カードに障害が発生した場合でもシステム全体が正常に動作するように、デバイスは自動的に他のスタンバイ NIC カードを有効にします。
- 負荷平衡：同一の IP アドレスを使用し、2 枚の NIC カードは全帯域幅の負荷を共有することにより、システムは 2GB ネットワーク性能を提供できます。
- マルチアドレスモード：2 枚の NIC カードのパラメータは個別に設定できます。パラメータ設定には、NIC 選択で LAN1 または LAN2 を選択できます。デフォルトルートとして 1 枚の NIC カードを選択できます。そして、システムはエクストラネットに接続し、データはデフォルトルートで転送されます。

手順 3 必要に応じて他の IP 設定を行います。

 NOTE

- DHCP サーバーがネットワークで使用可能な場合は[DHCP を有効にする]を選択して、自動的に IP 設定を取得します。
- MTU の有効範囲は 500～9676 です。

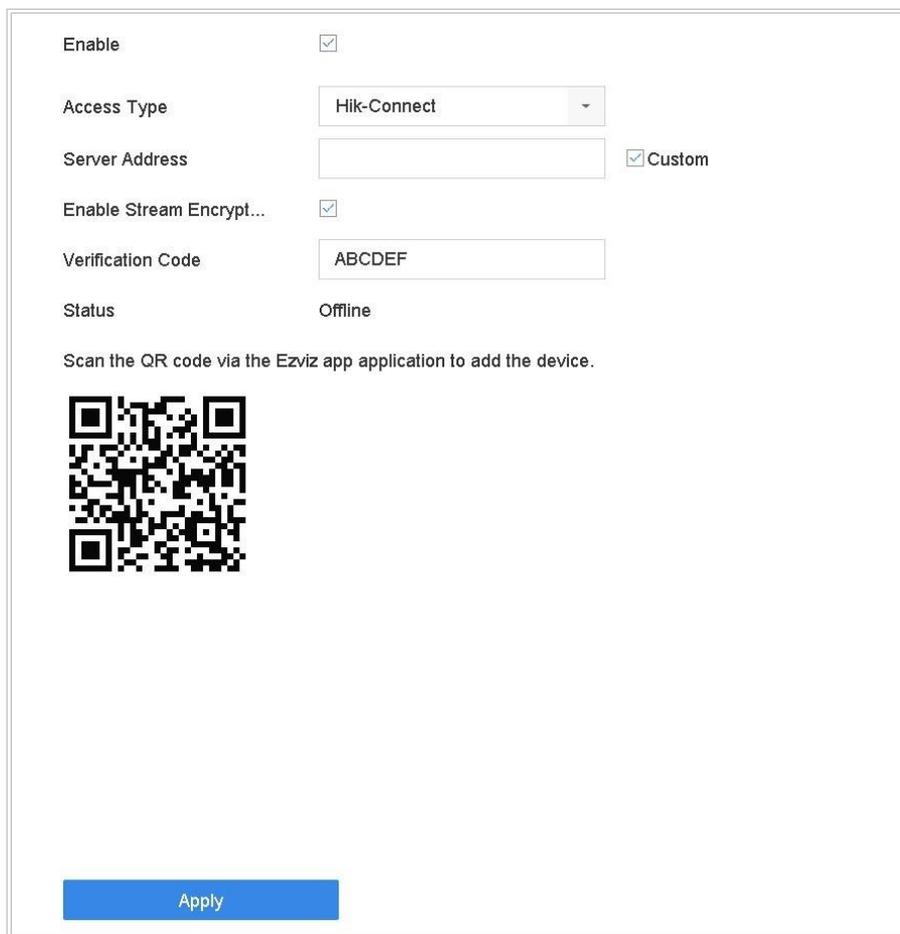
手順 4 [適用]をクリックします。

Hik-Connect の設定

目的

Hik-Connect は、リモート監視システムで接続機器へのアクセスや管理を実行するための携帯電話アプリケーションとサービスプラットフォームを提供します。

手順 1 [システム]>[ネットワーク]>[詳細]>[プラットフォームアクセス]に進みます。



Enable

Access Type

Server Address Custom

Enable Stream Encrypt...

Verification Code

Status Offline

Scan the QR code via the Ezviz app application to add the device.



図 16-2 Hik-Connect 設定

手順 2 [有効にする]にチェックを入れると、[サービス利用規約]メッセージが表示されます。確認コードを作成して、「サービス利用規約に同意する」にチェックを入れて [OK]をクリックします。

手順 3 (オプション) [カスタム]にチェックを入れて、必要に応じてサーバーアドレスを入力します。デフォルトのサーバーアドレスは「dev.hik-connect.com」です。

手順 4 (オプション) [ストリーム暗号化を有効にする]にチェックを入れます。リモートアクセスとライブビューには確認コードが必要です。

手順 5 [適用]をクリックします。

NOTE

- 設定後、Hik-Connect アプリまたは www.hik-connect.com を通じて機器のアクセスと管理が可能になります。
- Hik-Connect の使用法の詳細については www.hik-connect.com のヘルプをご参照ください。

DDNS の設定

目的

ネットワークアクセスにダイナミック DNS サービスを設定できます。異なる DDNS モードは使用可能 DynDNS、PeanutHull、NO-IP

開始前

ダイナミック DNS 設定をする前に、DynDNS、PeanutHull、NO-IP サービスを ISP に登録する必要があります。

手順 1 [システム] > [ネットワーク] > [TCP/IP] > [DDNS]に進みます。

手順 2 [有効にする]を選択します。

手順 3 DDNS タイプで [DynDNS]を選択します。

NOTE

DDNS タイプでは、PeanutHull と NO-IP も利用可能であり、それに応じて必要な情報を入力する必要があります。

手順 4 DynDNS のサーバーアドレスを入力します (例 : members.dyndns.org) 。

手順 5 DynDNS Web サイトから取得したドメイン名を [デバイスドメインネーム]に入力します。

手順 6 DynDNS Web サイトに登録されているユーザー名とパスワードを入力します。

TCP/IP DDNS PPPoE NTP NAT

Enable

DDNS Type DynDNS

User Name test

Server Address member.dyndns.org

Password *****

Device Domain Name 1233dyndns.com

Status DDNS is disabled.

Apply

図 16-3 DDNS 設定

手順 7 [適用]をクリックします。

PPPoE の設定

デバイスが PPPoE を介してインターネットに接続されている場合は、[システム]>[ネットワーク]>[TCP/IP]>[PPPoE]からユーザー名とパスワードを設定する必要があります。

NOTE

PPPoE サービスの詳細については、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

NTP 設定

目的

システムの日時を正確に保つために、デバイスにネットワークタイムプロトコル(NTP)サーバーへの接続を設定できます。

手順 1 [システム]>[ネットワーク]>[TCP/IP]>[NTP]に進みます。

TCP/IP	DDNS	PPPoE	NTP	NAT
			<input checked="" type="checkbox"/>	
			Interval (min)	180
			NTP Server	au.pool.ntp.org
			NTP Port	123
Apply				

図 16-4 NTP 設定

手順 2 [有効にする]を選択します。

手順 3 必要に応じて NTP 設定を行います。

- 間隔（分）：NTPサーバーでの 2 つの時間同期間の時間間隔です。
- NTP サーバー：NTP サーバーの IP アドレス。
- NTP ポート：NTP サーバーのポート。

手順 4 [適用]をクリックします。

SNMP 設定

目的

SNMP 設定を行い、デバイスのステータスとパラメータ情報を取得できます。

開始前

SNMP ソフトウェアをダウンロードして、SNMP ポート経由でデバイス情報を受信します。トラップアドレスとポートを設定して、デバイスはアラームイベントと異常メッセージを監視センターに送信できます。

手順 1 [システム]>[ネットワーク]>[詳細]>SNMP に進みます。

SNMP	Email	More Settings
Enable	<input type="checkbox"/>	
SNMP Version	V2	
SNMP Port	161	
Read Community	public	
Write Community	private	
Trap Address		
Trap Port	162	

Apply

図 16-5 SNMP 設定

手順2 [有効にする]を選択します。セキュリティリスクのメッセージボックスが表示されたら、[Yes]をクリックして続行します。

手順3 必要に応じて SNMP 設定を行います。

- トラップアドレス：SNMP ホストの IP アドレス。
- トラップポート：SNMP ホストのポート。

手順4 [適用]をクリックします。

電子メールの設定

目的

アラームや動作イベントの検出や管理者パスワードの変更など特定のイベントが発生すると、システムは指定されたユーザーにメールを送信します。

開始前

デバイスは、SMTP メールサーバーを含むローカルエリアネットワーク(LAN)に接続されている必要があります。通知を送信するメールアカウントの場所に応じて、ネットワークを

イントラネットまたはインターネットに接続します。

手順 1 [システム]>[ネットワーク]>[詳細]>[E メール]に進みます。

The screenshot shows the 'Email' configuration page. It features several input fields and checkboxes. The 'Sender' field is filled with 'test01', and the 'Sender's Address' is 'test01@hotmail.com'. The 'Receiver' field is 'test02', and the 'Receiver's Address' is 'test02@hotmail.com'. The 'SMTP Port' is set to '25'. There are 'Test' and 'Apply' buttons at the bottom.

図 16-6 メール設定

手順 2 次の電子メールを設定します。

- サーバー認証有効：SMTP サーバーがユーザー認証を必要とする場合には、チェックボックスを選択してこの機能を有効にして、ユーザー名とパスワードを入力します。
- SMTP サーバー：SMTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名（例：smtp.263xmail.com）。
- SMTP ポート：SMTP ポート。SMTP に使用されるデフォルトの TCP/IP ポートは 25 です。
- SSL/TLS の有効化：SMTP サーバーで要求されている場合は、[SSL/TLS を有効にする]を選択します。
- 送信者：送信者の名前。
- 送信者のアドレス：送信者のアドレス。
- 受信者の選択：受信者を選択してください。最大 3 名の受信者が追加できます。
- 受信者：受信者の名前。
- 受信者のアドレス：通知を受けるユーザーのメールアドレス。
- 添付画像の有効化：アラーム画像を添付したメールを送信する場合には、この機能を有効にします。2 つの隣接するアラーム画像の時間間隔。

手順 3 [適用]をクリックします。

手順4 (オプション) [テスト]をクリックして、テストメールを送信します。

ポートの設定

関連機能を有効にするために、さまざまなタイプのポートを設定できます。

[システム]>[ネットワーク]>[詳細設定]>[詳細設定]に進み、必要に応じてポートを設定します。

- **アラームホスト IP/ポート**：リモートアラームホストが設定されている場合、アラームがトリガーされると、デバイスはアラームイベントまたは例外メッセージをホストに送信します。リモートアラームホストには、クライアント管理システム(CMS)ソフトウェアがインストールされている必要があります。

[アラームホスト IP]は CMS ソフトウェアがインストールされているリモート PC (例：iVMS-4200) の IP アドレスで、[アラームホストポート] (デフォルトは 7200) はソフトウェアで設定されているアラーム監視ポートと同じである必要があります。

- **サーバーポート**：サーバーポート (デフォルトでは 8000) は、リモートクライアントソフトウェアアクセス用に構成されている必要があります、有効範囲は 2000~65535 です。
- **HTTP ポート**：HTTP ポート (デフォルトは 80) はリモート Web ブラウザーアクセス用に設定する必要があります。
- **マルチキャスト IP**：ネットワークを介して許可される最大数を超えるカメラのライブビューを有効にするようにマルチキャストを設定できます。マルチキャスト IP アドレスは、224.0.0.0~239.255.255.255 のクラス D IP 範囲をカバーし、239.252.0.0~239.255.255.255 までの IP アドレス範囲を使用することを推奨します。

CMS ソフトウェアにデバイスを追加するときは、マルチキャストアドレスはデバイスのアドレスと同じ必要があります。

- **RTSP ポート**：RTSP (リアルタイムストリーミングプロトコル) は、エンターテインメントおよび通信システムがストリームメディアサーバーを制御するために設計されたネットワーク制御プロトコルです。デフォルトポートは 554 です。
- **出力帯域幅制限**：チェックボックスにチェックを入れて、出力帯域幅制限を有効にできます。
- **出力帯域幅**：出力帯域幅制限を有効にした後、出力帯域幅を入力します。

NOTE

- 出力帯域幅制限は、遠隔ライブビューと再生に使われます。
- デフォルトの出力帯域幅は最大限界です。

Email	Platform Access	More Settings
Alarm Host IP		<input type="text"/>
Alarm Host ...		<input type="text" value="0"/>
Server Port		<input type="text" value="8000"/>
HTTP Port		<input type="text" value="80"/>
Multicast IP		<input type="text"/>
RTSP Port		<input type="text" value="554"/>
Output Ban...	<input type="checkbox"/>	
Output Ban...		<input type="text" value="2"/>

図 16-7 ポート設定